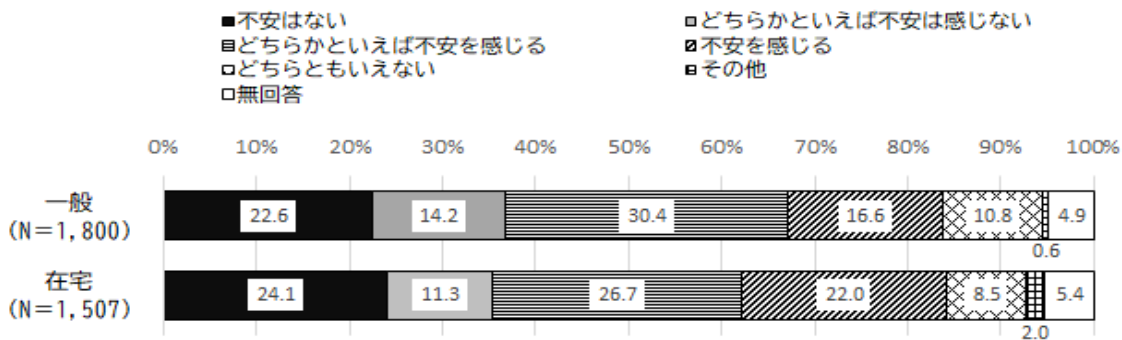


10. 虐待・権利擁護

(1) 高齢者の権利侵害に対する不安

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

虐待や財産をねらった詐欺など高齢者の権利を侵害するものに対する不安があるか尋ねたところ、「どちらかといえば不安を感じる」が最も多く、一般高齢者で30.4%、在宅高齢者で26.7%となっている。次いで「不安はない」が一般高齢者で22.6%、在宅高齢者で24.1%となっている。



「不安はない」+「どちらかといえば不安は感じない」の合計
 【令和4年度】一般：40.9% 在宅：37.4%
 【令和7年度】一般：36.8% 在宅：35.4%

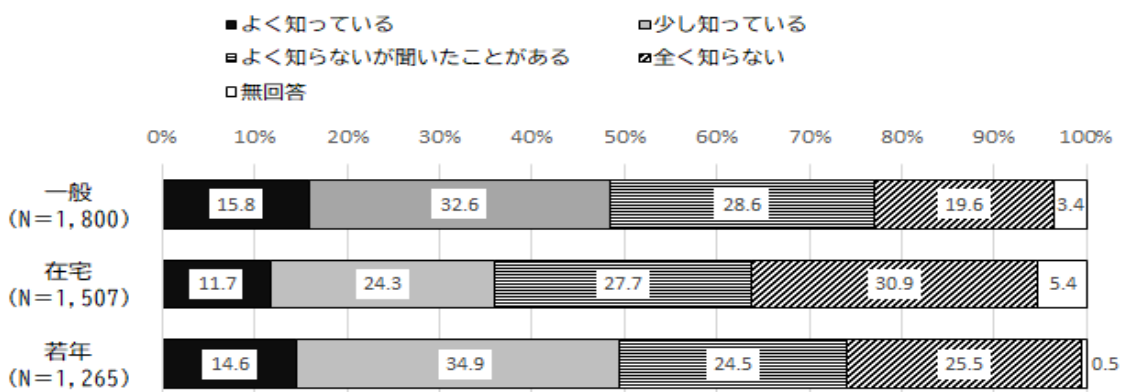
「不安を感じる」+「どちらかといえば不安を感じる」の合計
 【令和4年度】一般：42.3% 在宅：41.9%
 【令和7年度】一般：47.0% 在宅：48.7%

(2) 成年後見制度の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

成年後見制度を知っているか尋ねたところ、一般高齢者と若年者では「少し知っている」が最も多く、一般高齢者で32.6%、若年者で34.9%となっている。

在宅高齢者では、「全く知らない」が30.9%と最も多くなっている。



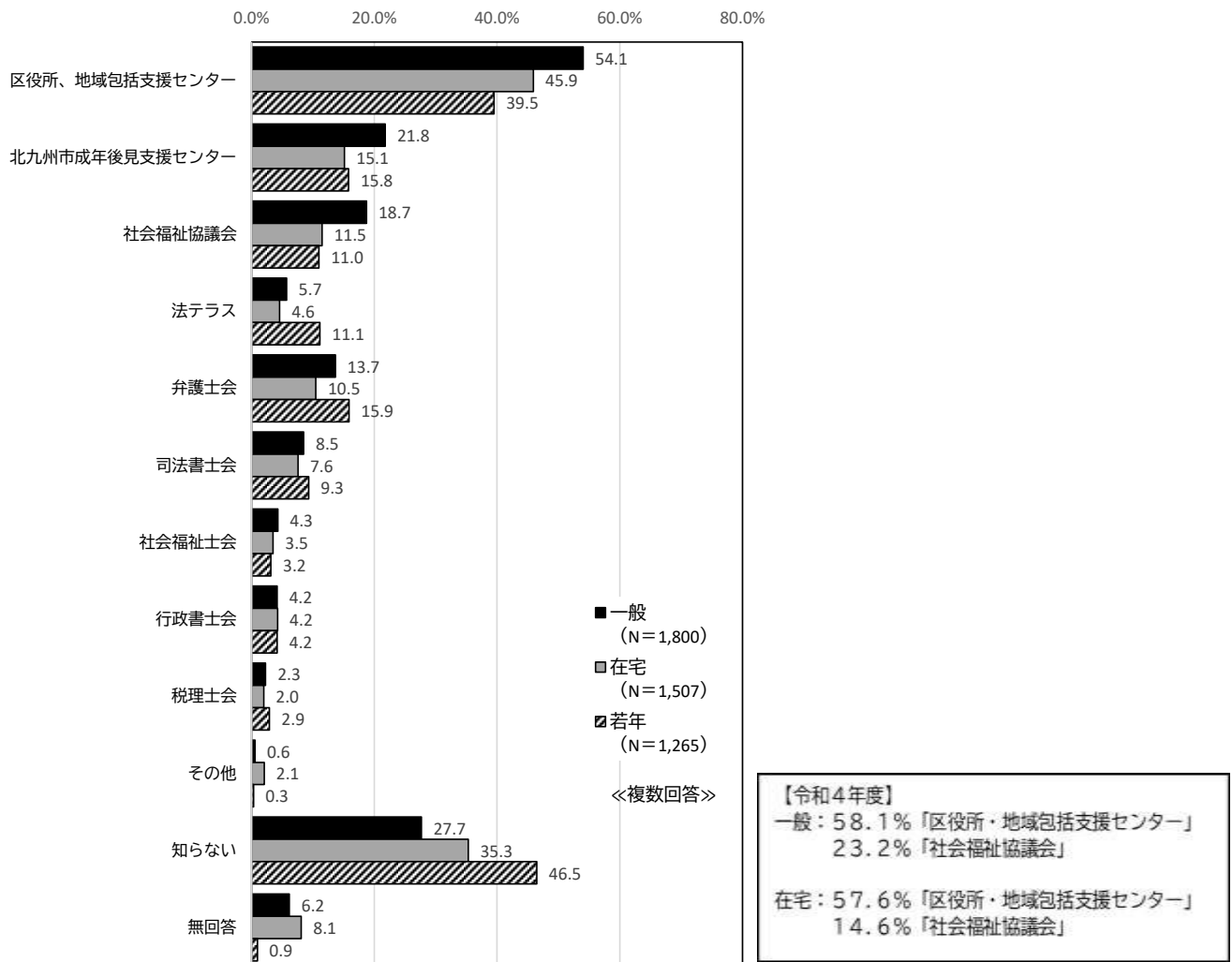
「よく知っている」+「少し知っている」の合計
 【令和4年度】
 一般：47.9% 在宅：35.8%
 【令和7年度】
 一般：48.4% 在宅：36.0%

(3) 成年後見制度の相談窓口の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

成年後見制度の相談に応じてくれる窓口を知っているか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者は「区役所・地域包括支援センター」が最も多くなっている一方で、若年者は「知らない」が最も多くなっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	区役所・地域包括支援センター (54.1%)	区役所・地域包括支援センター (45.9%)	知らない (46.5%)
2位	知らない (27.7%)	知らない (35.3%)	区役所・地域包括支援センター (39.5%)
3位	北九州市成年後見支援センター (21.8%)	北九州市成年後見支援センター (15.1%)	弁護士会 (15.9%)



※令和4年度は選択肢「知らない」はなし
※令和4年度は「若年者」への設問はなし

(4) 成年後見制度の利用促進・充実

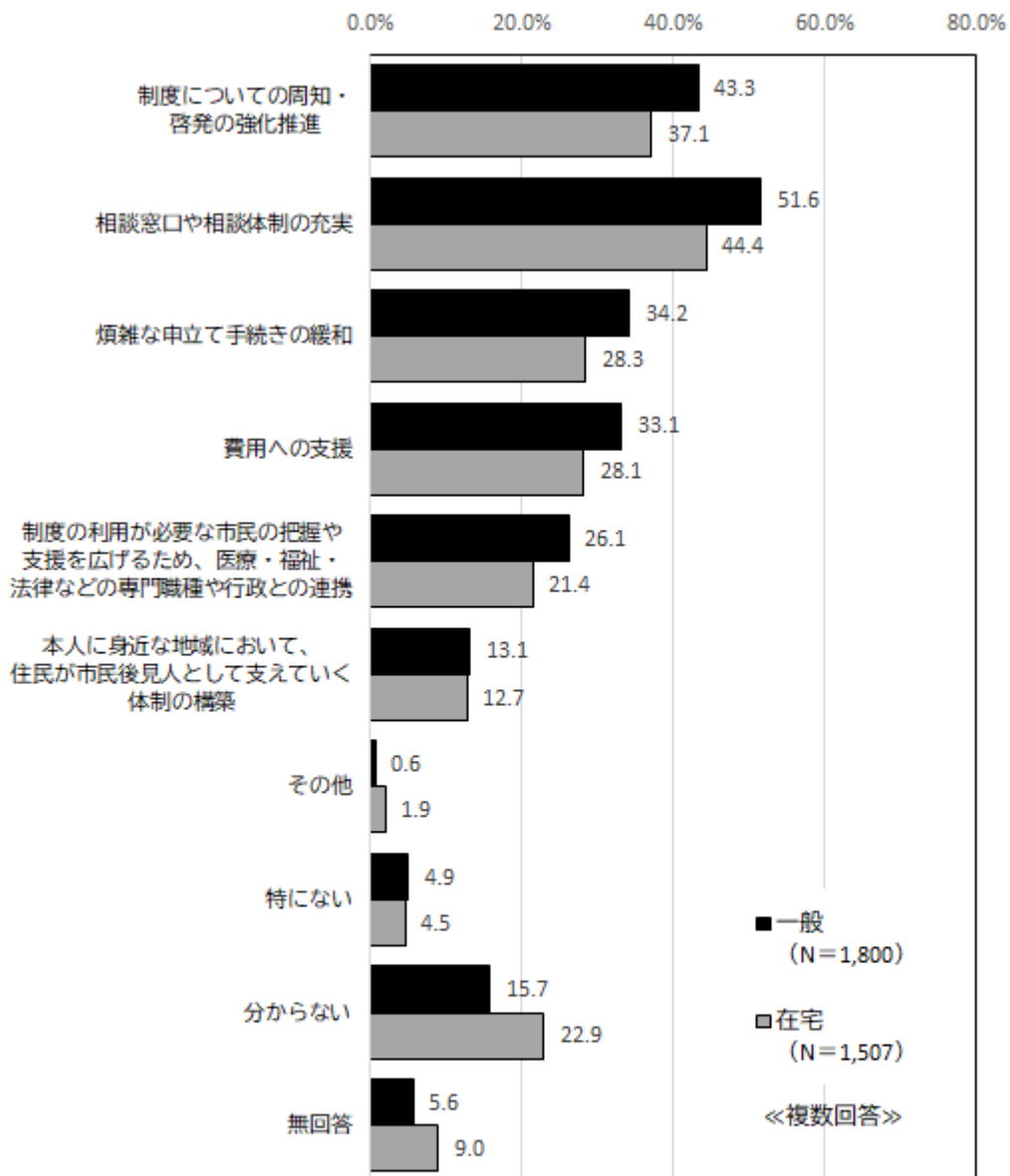
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

成年後見制度の利用の促進・充実を図るためにどのようなことが必要か尋ねたところ、「相談窓口や相談体制の充実」が最も多く、一般高齢者で 51.6%、在宅高齢者で 44.4%となっている。次いで「制度についての周知・啓発の強化推進」が一般高齢者で 43.3%、在宅高齢者で 37.1%、「煩雑な申立て手続きの緩和」が一般高齢者で 34.2%、在宅高齢者で「28.3%」となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者
1位	相談窓口や相談体制の充実 (51.6%)	相談窓口や相談体制の充実 (44.4%)
2位	制度についての周知・啓発の強化推進 (43.3%)	制度についての周知・啓発の強化推進 (37.1%)
3位	煩雑な申立て手続きの緩和 (34.2%)	煩雑な申立て手続きの緩和 (28.3%)

☆「成年後見制度」とは☆

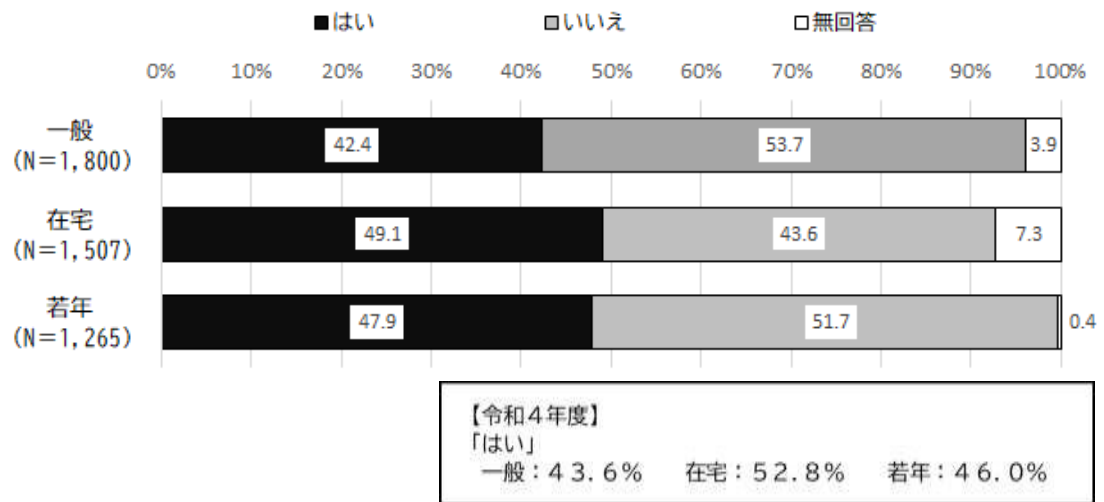
認知症や知的障害などの理由で判断能力が不十分になった場合に、成年後見人等が本人に代わって、財産の管理や介護サービスの契約などを行い、法的に本人を支援する制度。



1.1. 地域包括支援センター

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「地域包括支援センター」を知っているか尋ねたところ、「はい」と回答した割合は、一般高齢者で42.4%、在宅高齢者で49.1%、若年者で47.9%となっている。

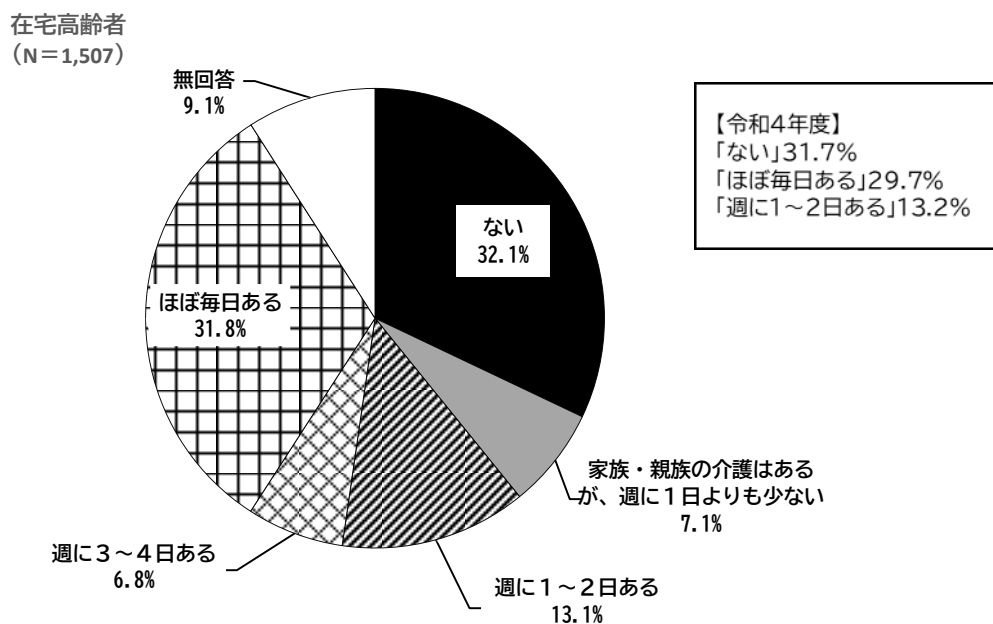


1 2. 介護保険制度

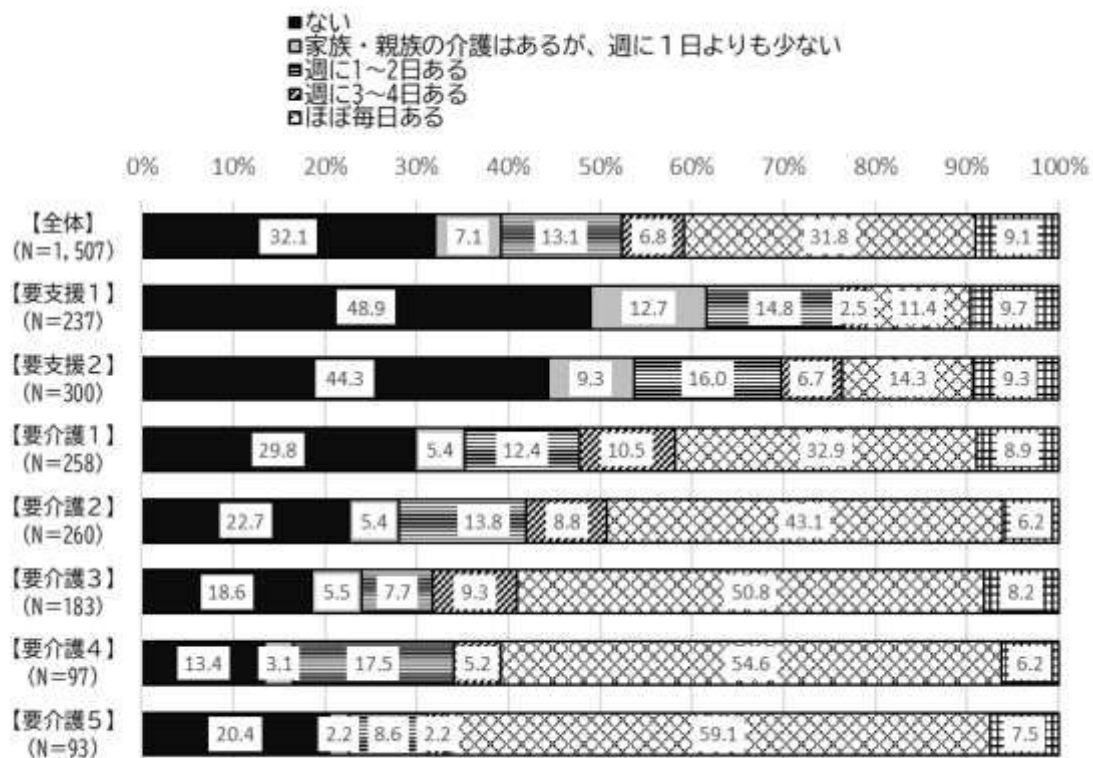
(1) 家族や親族からの介護の頻度

対象：『在宅高齢者』

家族や親族からの介護が週どのくらいあるか尋ねたところ、「ない」が32.1%と最も多く、次いで「ほぼ毎日ある」が31.8%、「週に1～2日ある」が13.1%となっている。



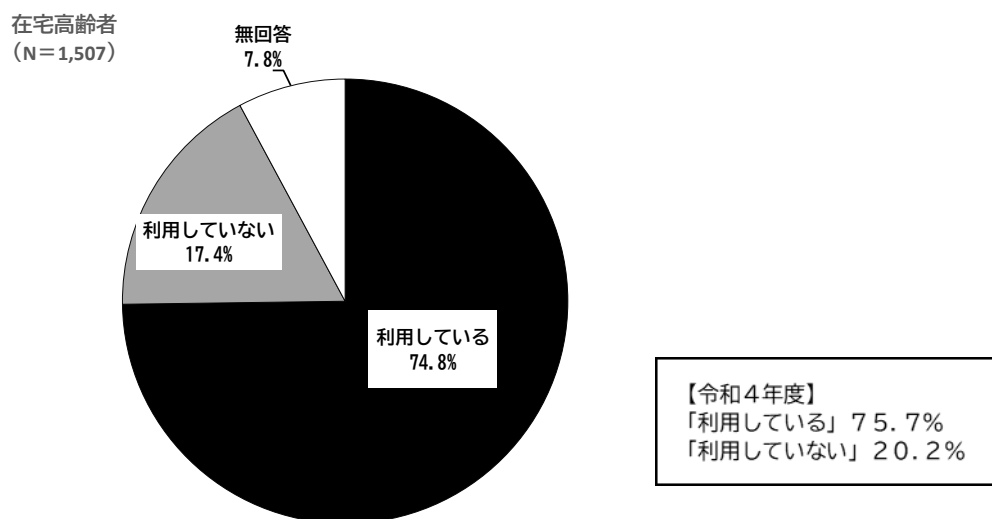
在宅高齢者 (要介護別)



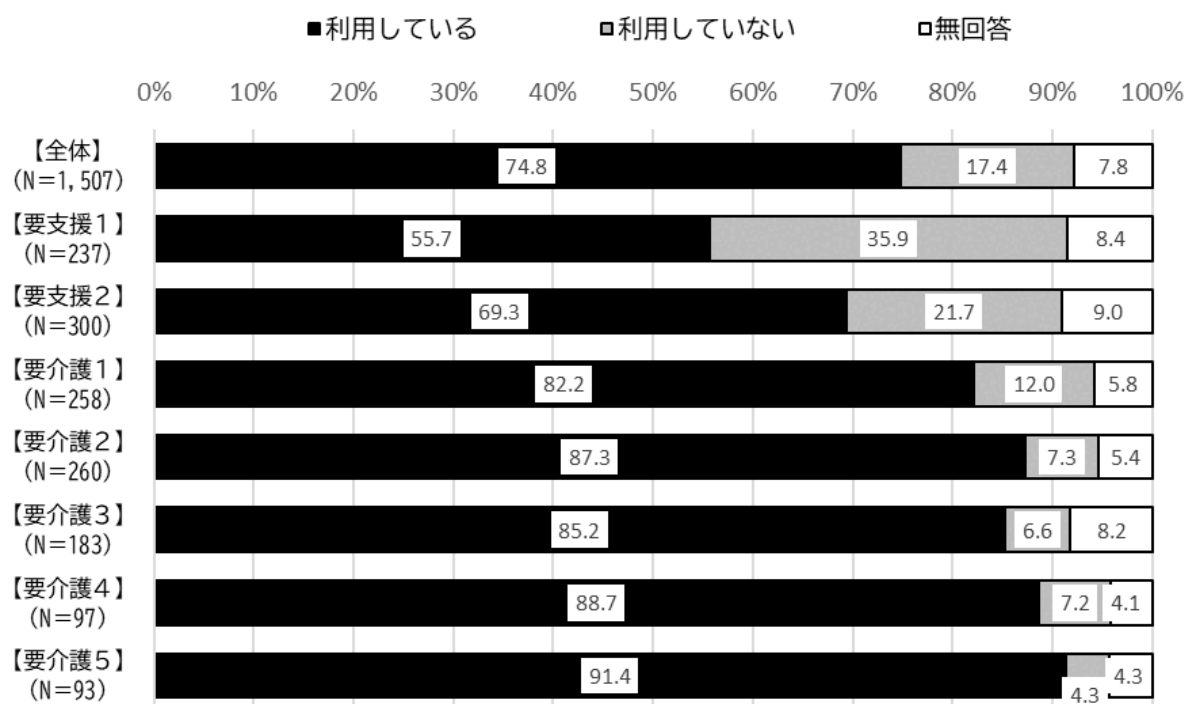
(2) 介護保険サービスの利用状況

対象：『在宅高齢者』

現在、介護保険のサービスを「利用している」在宅高齢者は 74.8%、「利用していない」は 17.4% となっている。



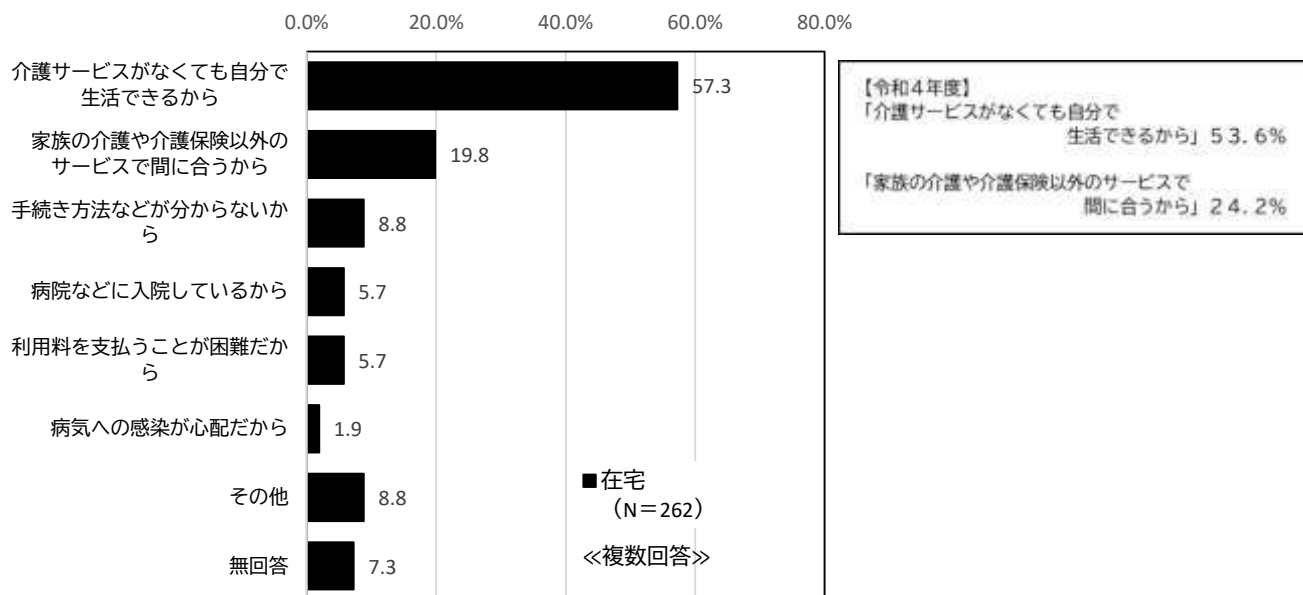
在宅高齢者（要介護別）



(2) - 1 介護保険サービスを利用していない理由

対象：『在宅高齢者』

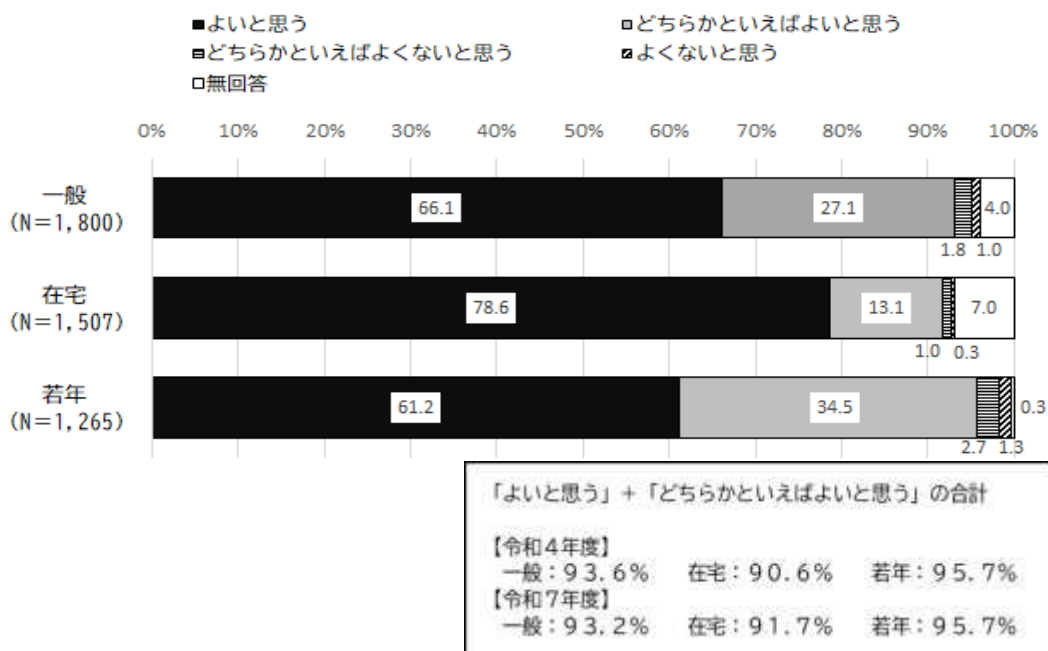
介護保険サービスを「利用していない」と回答した人に、利用していない理由を尋ねたところ、「介護サービスがなくても自分で生活できるから」が57.3%と最も多く、次いで「家族の介護や介護保険以外のサービスで間に合うから」が19.8%となっている。



(3) 介護保険制度に対する考え

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

介護保険についてどのように考えるか尋ねたところ、「よいと思う」は一般高齢者が66.1%、在宅高齢者が78.6%、若年者が61.2%で最も多く、「どちらかといえばよいと思う」と回答した人と合わせると、一般高齢者で93.2%、在宅高齢者で91.7%、若年者で95.7%といずれも9割を超えている。

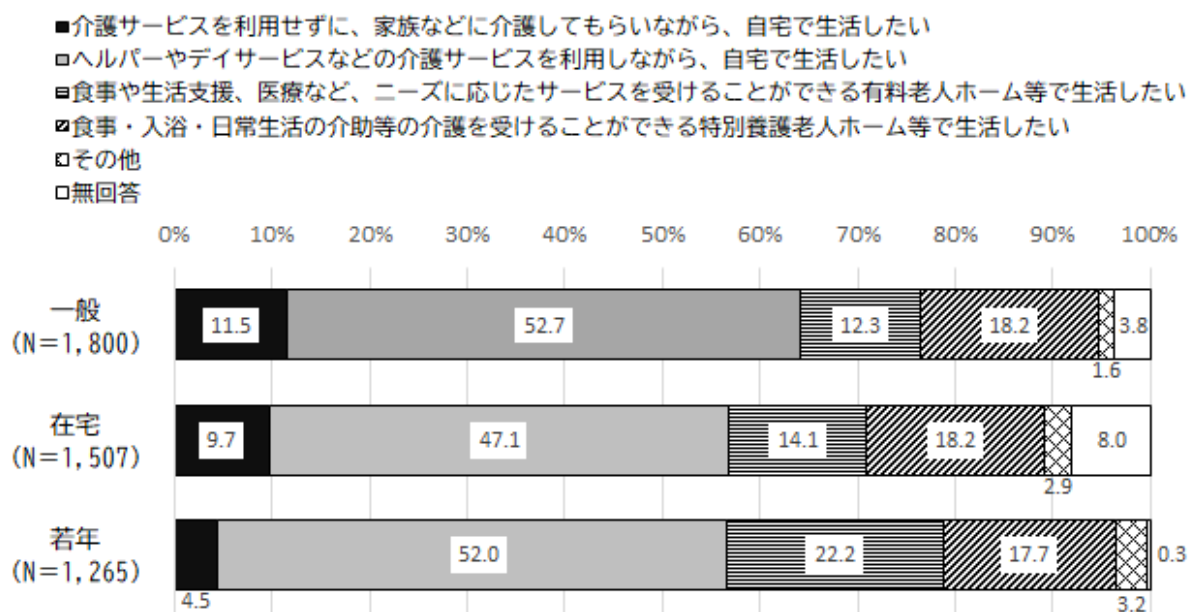


1.3. 保健・福祉サービスの利用意向

(1) 介護が必要な状態になったときに希望する生活場所

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

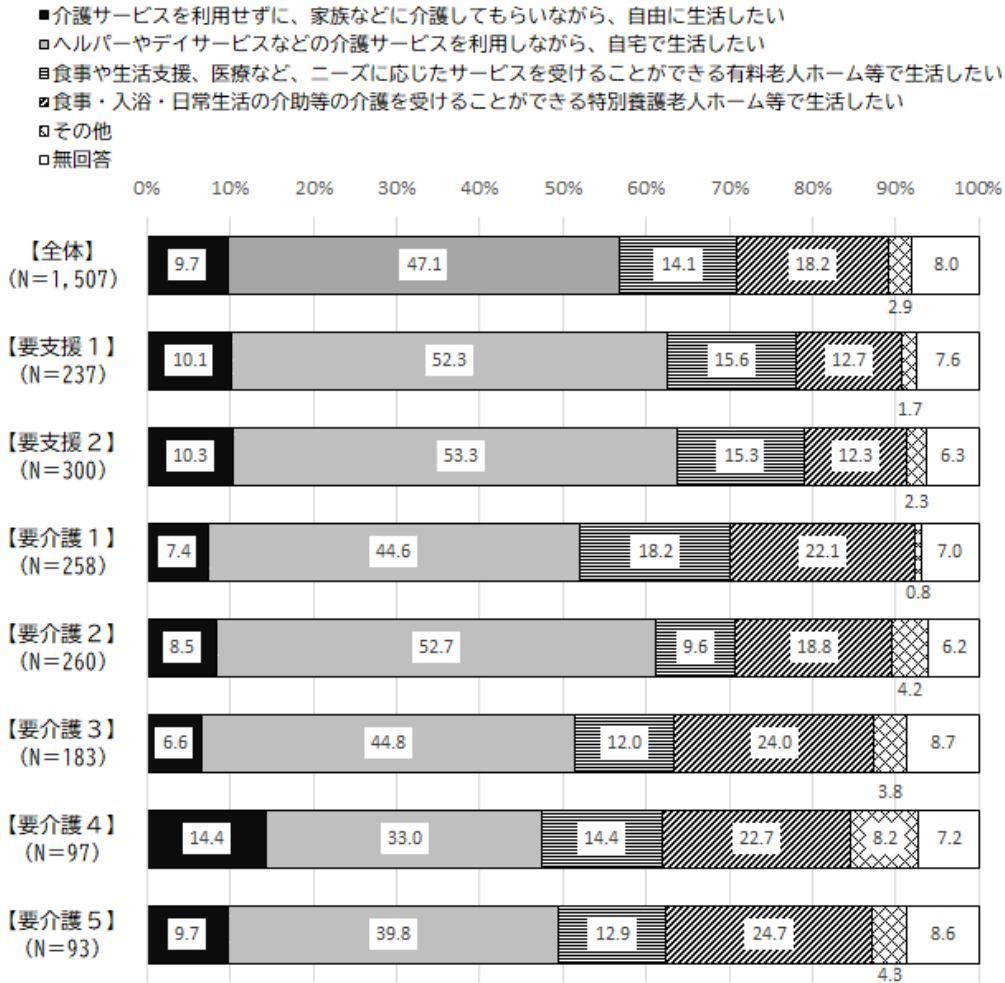
介護が必要な状態になったとき(在宅高齢者の場合は、現在よりもさらに介護が必要になったとき)に、どこで生活することを希望するか尋ねたところ、「ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が最も多く、一般高齢者で52.7%、在宅高齢者で47.1%、若年者で52.0%となっている。また、若年者では「食事や生活支援、医療など、ニーズに応じたサービスを受けることができる有料老人ホーム等で生活したい」が22.2%と一般高齢者の12.3%、在宅高齢者の14.1%よりやや高い傾向となっている。



【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、いずれの要介護度においても「ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が最も多くなっている。次いで要介護1～5は「食事・入浴・日常生活の介助等の介護を受けることができる特別養護老人ホーム等で生活したい」の割合が多く、要支援1・2は「食事や生活支援、医療など、ニーズに応じたサービスを受けることができる有料老人ホーム等で生活したい」が多くなっている。

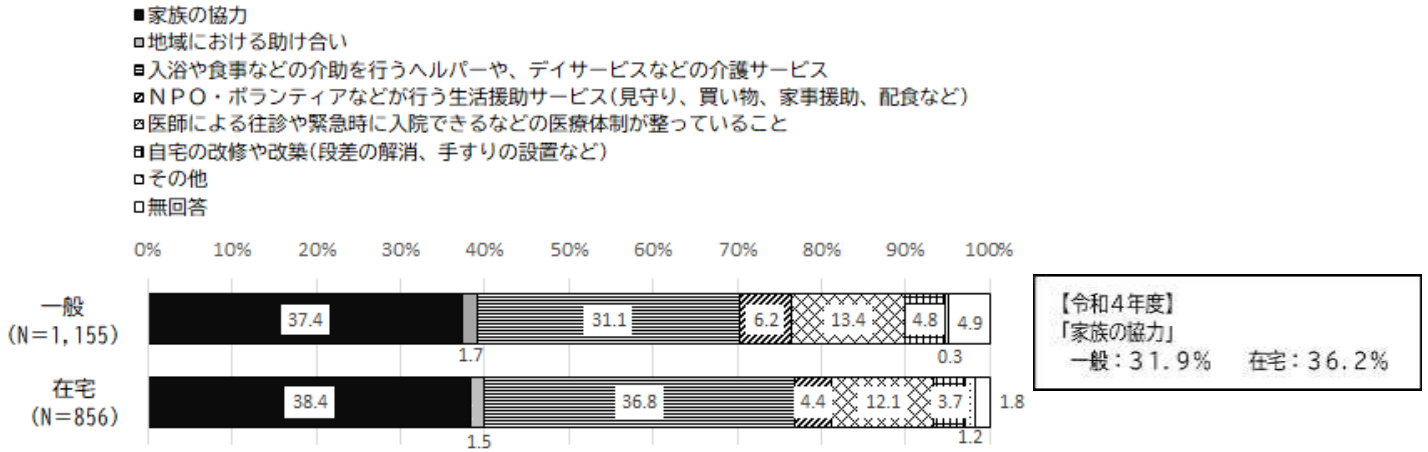
在宅高齢者（要介護度別）



(1) - 1 自宅で暮らし続けるために最も必要なこと

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

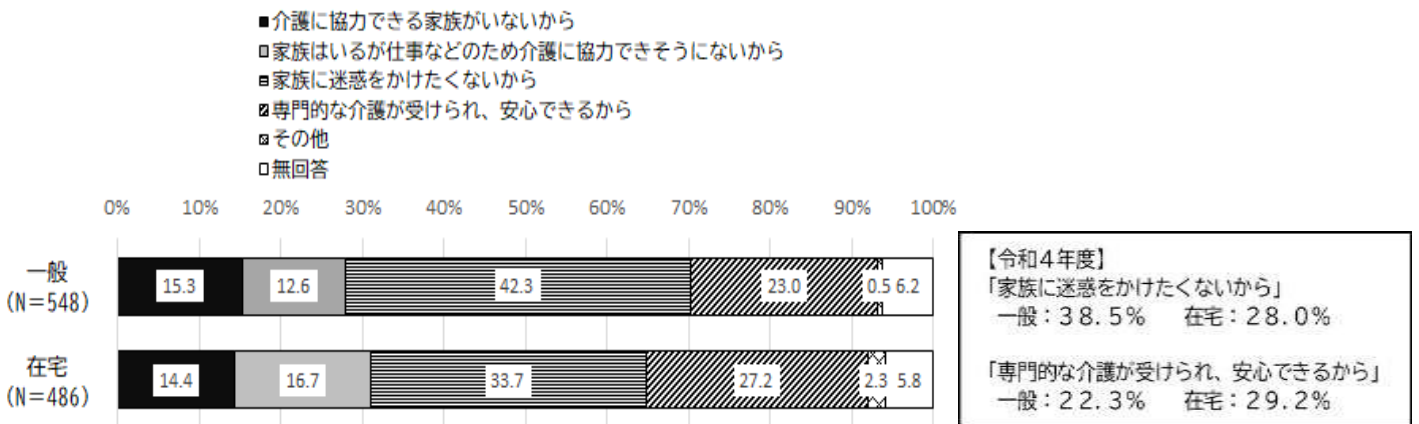
介護が必要な状態になったときに「自宅で生活したい」と回答した人に、自宅で暮らし続けるために必要なことを尋ねたところ、「家族の協力」が最も多く、一般高齢者で 37.4%、在宅高齢者で 38.4%となっており、次いで「入浴や食事などの介助を行うヘルパーや、デイサービスなどの介護サービス」が一般高齢者で 31.1%、在宅高齢者で 36.8%となっている。



(1) - 2 施設での生活を希望する理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

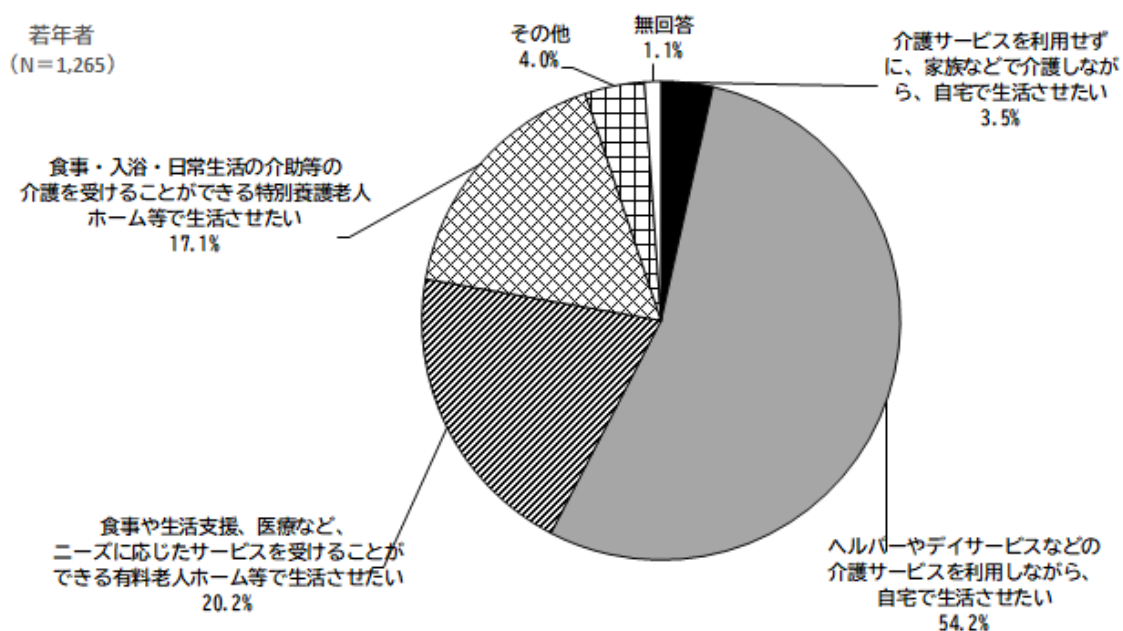
介護が必要な状態になったときに施設で生活したいと回答した人に、理由を尋ねたところ、「家族には迷惑をかけたくないから」が最も多く、一般高齢者で 42.3%、在宅高齢者で 33.7%となっており、次いで「専門的な介護が受けられ、安心できるから」が一般高齢者で 23.0%、在宅高齢者で 27.2%となっている。



(2) 家族を介護する状況となったときに希望する介護

対象：『若年者』

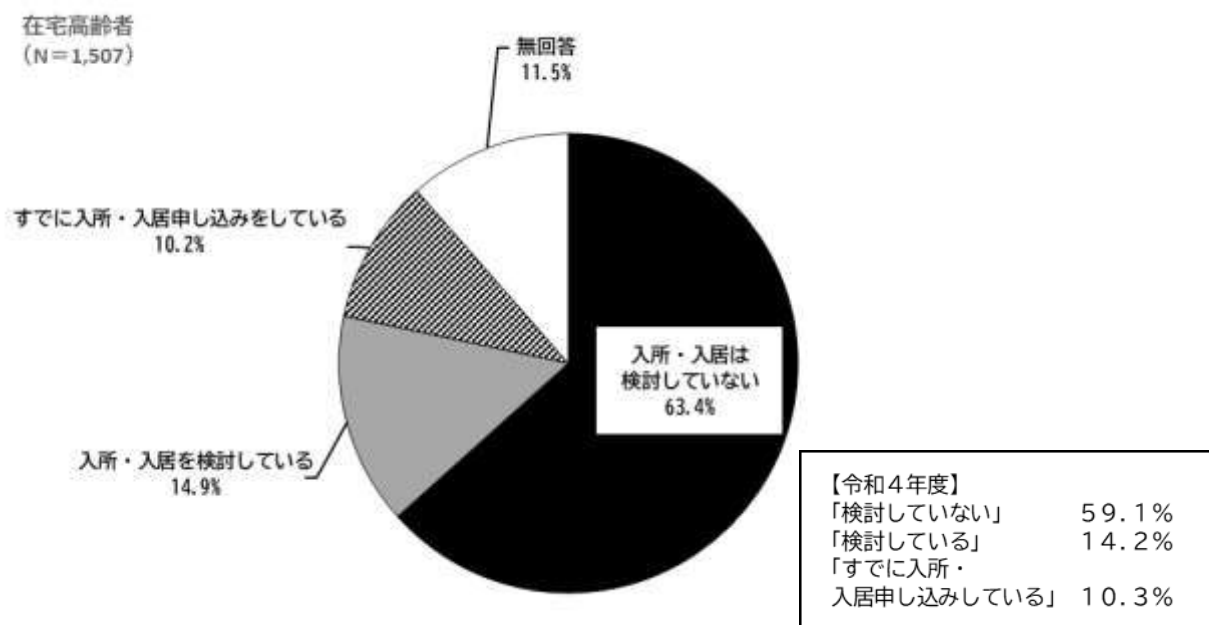
若年者層を対象に、家族(親・夫・妻など)を介護する状況となったときに、どのような介護を希望するか尋ねたところ、「ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスを利用しながら、自宅で生活させたい」が54.2%と最も多く、次いで「食事や生活支援、医療など、ニーズに応じたサービスを受けることができる有料老人ホーム等で生活させたい」が20.2%、「食事・入浴・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホーム等で生活させたい」が17.1%となっている。



(3) 施設への入所申し込み

対象：『在宅高齢者』

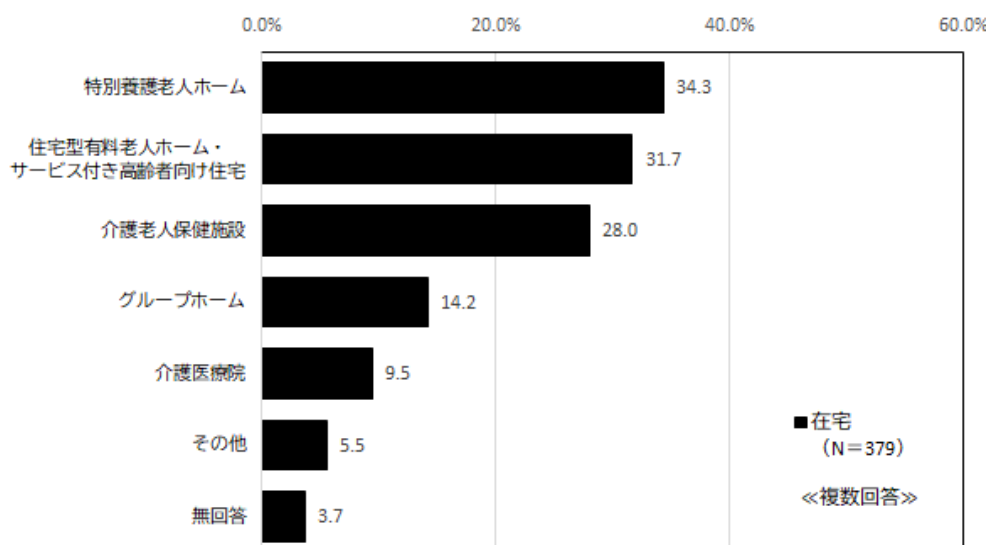
施設への入所申し込みについては、「検討していない」が63.4%、「検討している」が14.9%、「すでに申し込みをしている」が10.2%となっている。



(3) -1 入所・入居を検討している施設

対象：『在宅高齢者』

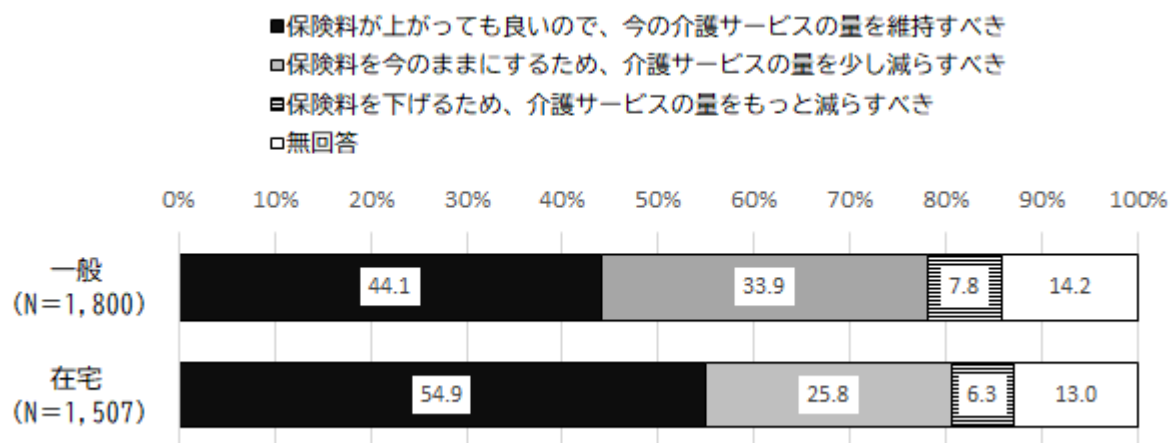
施設への入所・入居申し込みについて「検討している」または「申し込みをしている」と回答した人にどのような施設か尋ねたところ、「特別養護老人ホーム」が34.3%と最も多く、次いで「住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅」が31.7%、「介護老人保健施設」が28.0%となっている。



14. 介護保険の負担に対する考え方

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

介護保険サービスと介護保険料の関係についての考えを尋ねたところ、「保険料が上がっても良いので、今の介護サービスの量を維持すべき」が最も多く、一般高齢者で44.1%、在宅高齢者で54.9%となっている。次いで「保険料を今のままにするため、介護サービスの量を少し減らすべき」が一般高齢者で33.9%、在宅高齢者で25.8%となっている。

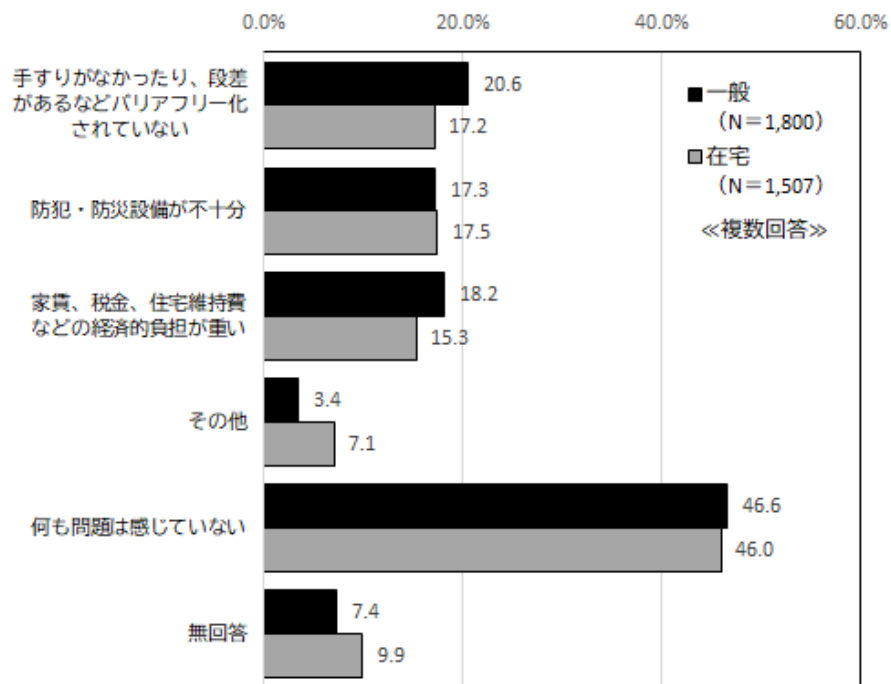


15. 生活環境

(1) 住宅の問題

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

現在住んでいる住宅について、どのような問題を感じているか尋ねたところ、「何も問題は感じていない」が最も多く、一般高齢者で46.6%、在宅高齢者で46.0%となっている。次いで「手すりがなかったり、段差があるなどバリアフリー化されていない」、「防犯・防災設備が不十分」、「家賃、税金、住宅維持費などの経済的負担が重い」が同程度となっている。

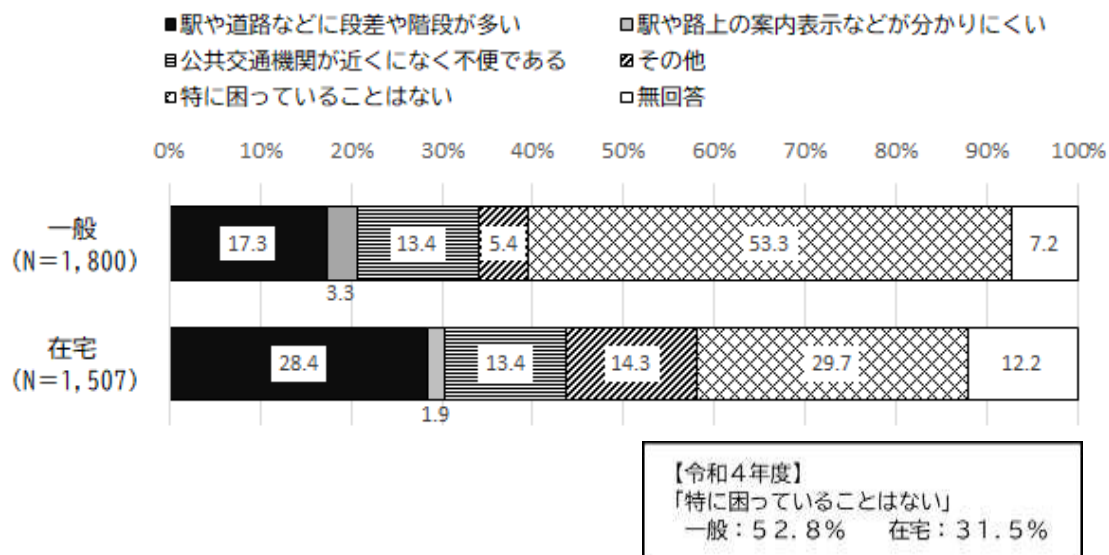


【令和4年度】
「何も問題は感じていない」
一般：39.2% 在宅：37.6%

(2) 外出・移動時の問題点

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

外出や移動のときに最も困っていることは何か尋ねたところ、「特に困っていることはない」が最も多く、一般高齢者で53.3%、在宅高齢者で29.7%となっている。次いで「駅や道路などに段差や階段が多い」が一般高齢者で17.3%、在宅高齢者で28.4%となっている。

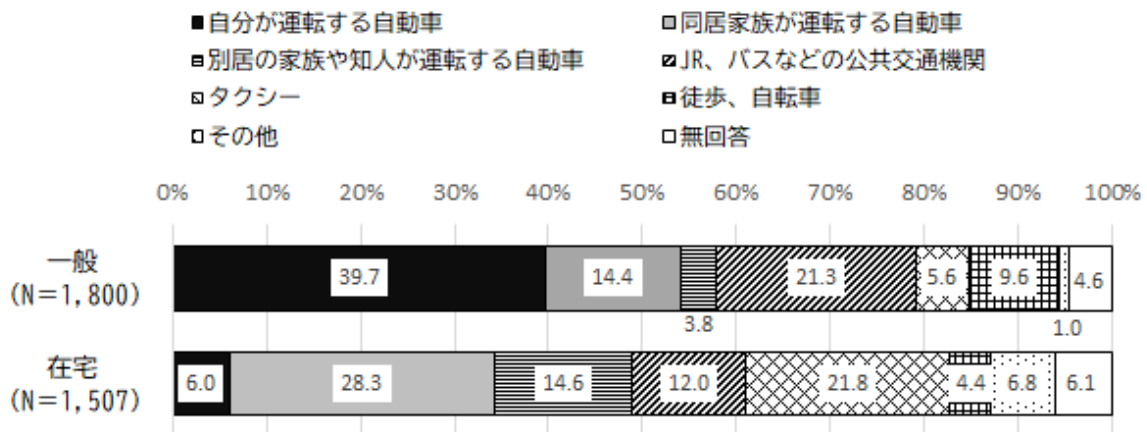


(3) 外出の際に最も利用する移動手段

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

外出する際に最も多く利用する移動手段を尋ねたところ、一般高齢者では「自分が運転する自動車」が39.7%と最も多く、次いで「JR、バスなどの公共交通機関」が21.3%、「同居家族が運転する自動車」が14.4%となっている。

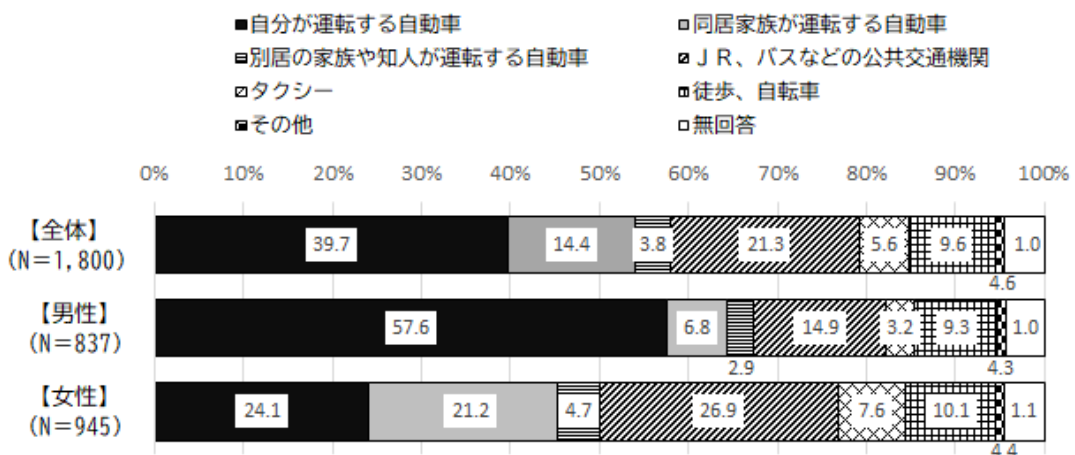
在宅高齢者では「同居家族が運転する自動車」が28.3%で最も多く、次いで「タクシー」が21.8%、「別居の家族や知人が運転する自動車」が14.6%となっている。



【属性別特徴】

一般高齢者について男女別にみると、男性では「自分が運転する自動車」の割合が女性に比べて大幅に多い。一方、女性では「同居家族が運転する自動車」、「JR、バスなどの公共交通機関」の割合が男性に比べて多くなっている。

一般高齢者（男女別）

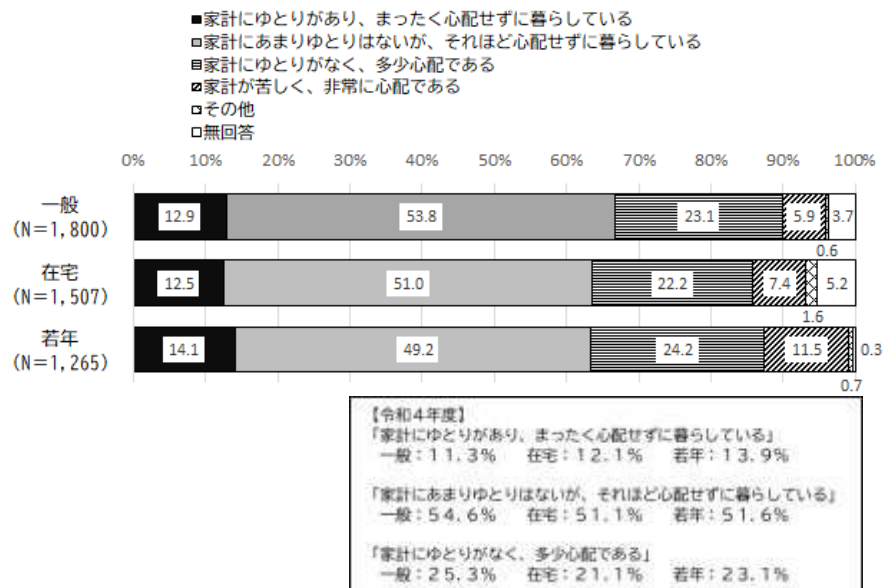


16. 暮らし向き

(1) 現在の暮らし向き

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

現在の暮らし向きについて尋ねたところ、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」が最も多く、一般高齢者で53.8%、在宅高齢者で51.0%、若年者で49.2%となっている。次いで「家計にゆとりがなく、多少心配である」が、一般高齢者で23.1%、在宅高齢者で22.2%、若年者で24.2%となっている。

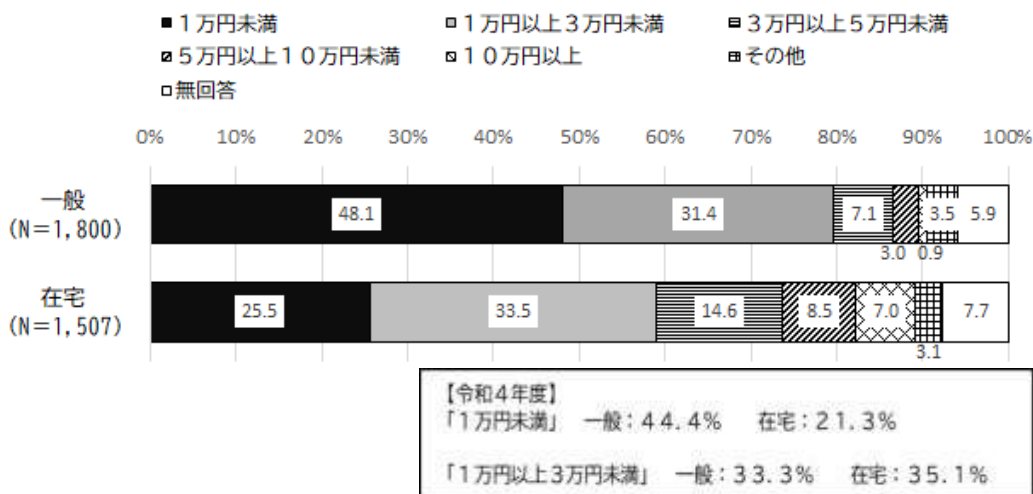


(2) 保健・医療・福祉関係サービスへの支出

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

保健・医療・福祉関係のサービスに対して支払っている金額（月額）について尋ねたところ、一般高齢者では「1万円未満」が48.1%と最も多く、次いで「1万円以上3万円未満」が31.4%、「3万円以上5万円未満」が7.1%となっている。

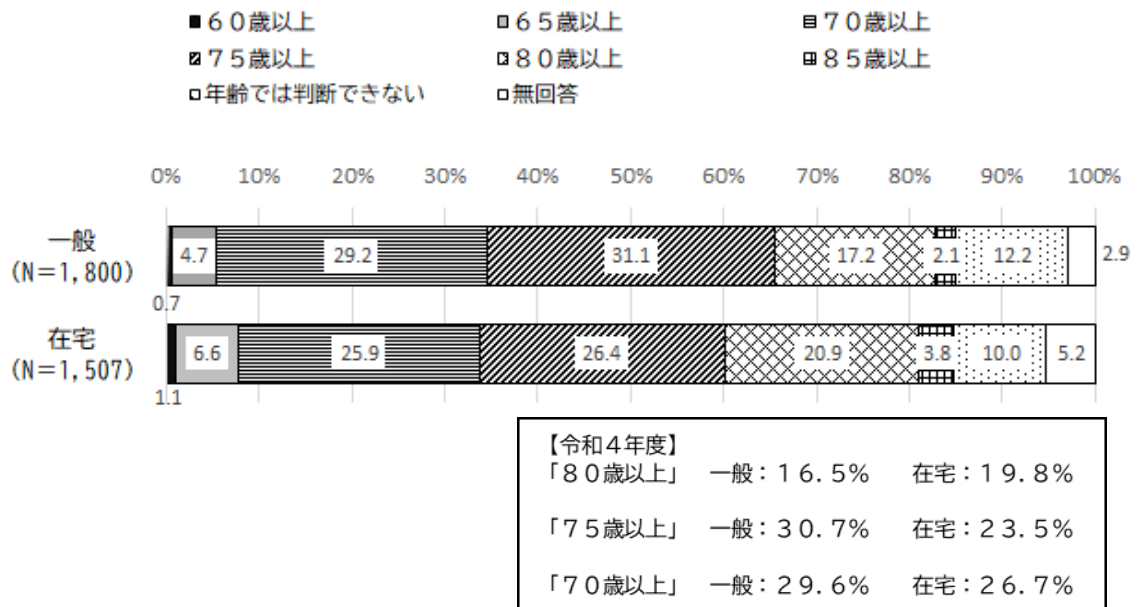
在宅高齢者では、「1万円以上3万円未満」が33.5%と最も多く、次いで「1万円未満」が25.5%、「3万円以上5万円未満」が14.6%となっている。



17. 高齢者

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

何歳頃から「高齢者」だと思うか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者いずれも「75歳以上」が最も多く、次いで「70歳以上」、「80歳以上」となっている。



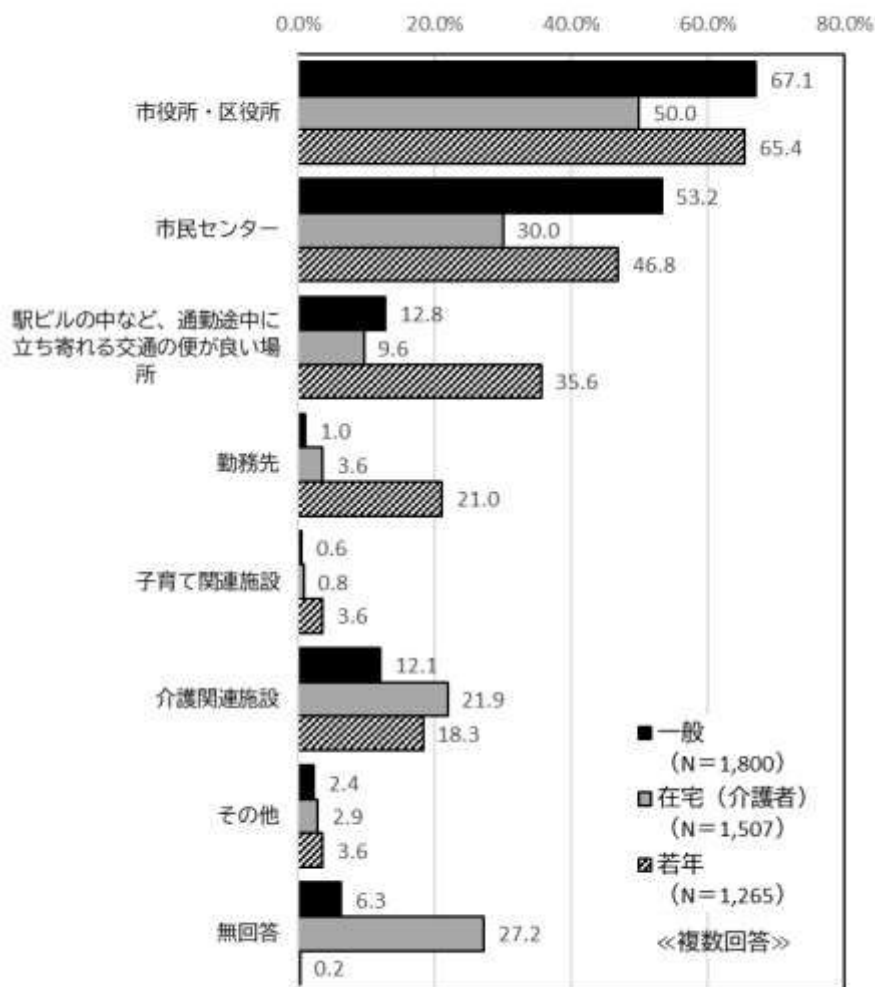
18. 高齢者福祉施策

(1) 相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

福祉に関する相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか尋ねたところ、「市役所・区役所」が最も多く、一般高齢者で67.1%、在宅高齢者（介護者）で50.0%、若年者で65.4%となっている。次いで「市民センター」が一般高齢者で53.2%、在宅高齢者（介護者）で30.0%、若年者で46.8%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者（介護者）	若年者
1位	市役所・区役所 (67.1%)	市役所・区役所 (50.0%)	市役所・区役所 (65.4%)
2位	市民センター (53.2%)	市民センター (30.0%)	市民センター (46.8%)
3位	駅ビルの中など、通勤途中に立ち寄れる交通の便が良い場所 (12.8%)	介護関連施設 (21.9%)	駅ビルの中など、通勤途中に立ち寄れる交通の便が良い場所 (35.6%)



(2) 北九州市が力を入れていくべき施策

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

どのような施策に力を入れていくべきか尋ねたところ、一般高齢者では「介護に関する相談窓口や相談体制の整備」が44.2%と最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が44.0%となっている。

在宅高齢者本人では「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が42.7%と最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が41.1%となっている。

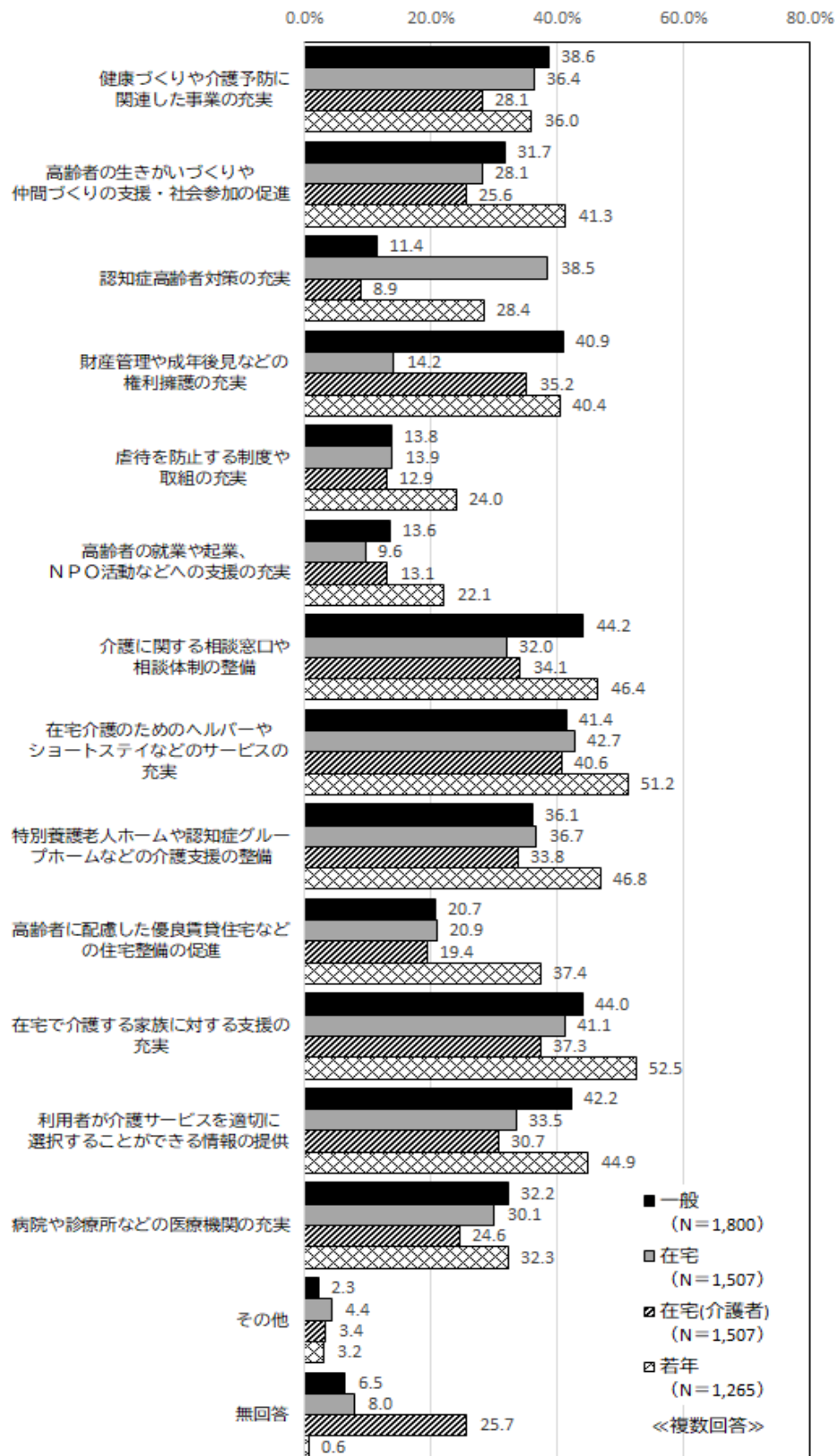
在宅高齢者（介護者）では「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が40.6%、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が37.3%となっている。

若年者では「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が52.5%と最も多く、次いで「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が51.2%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	在宅高齢者（介護者）	若年者
1位	介護に関する相談窓口や相談体制の整備（44.2%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（42.7%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（40.6%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（52.5%）
2位	在宅で介護する家族に対する支援の充実（44.0%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（41.1%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（37.3%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（51.2%）
3位	利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供（42.2%）	認知症高齢者対策の充実（38.5%）	財産管理や成年後見などの権利擁護の充実（35.2%）	特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護支援の整備（46.8%）

【令和4年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	在宅高齢者（介護者）	若年者
1位	介護に関する相談窓口や相談体制の整備（46.0%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（43.6%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（34.4%）	在宅で介護する家族に対する支援の充実（56.0%）
2位	在宅で介護する家族に対する支援の充実（45.8%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（42.5%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（34.2%）	特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護支援の整備（54.0%）
3位	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（44.4%）	高齢者の就職や起業、NPO活動などへの支援の充実（41.8%）	介護に関する相談窓口や相談体制の整備（32.9%）	在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実（52.7%）

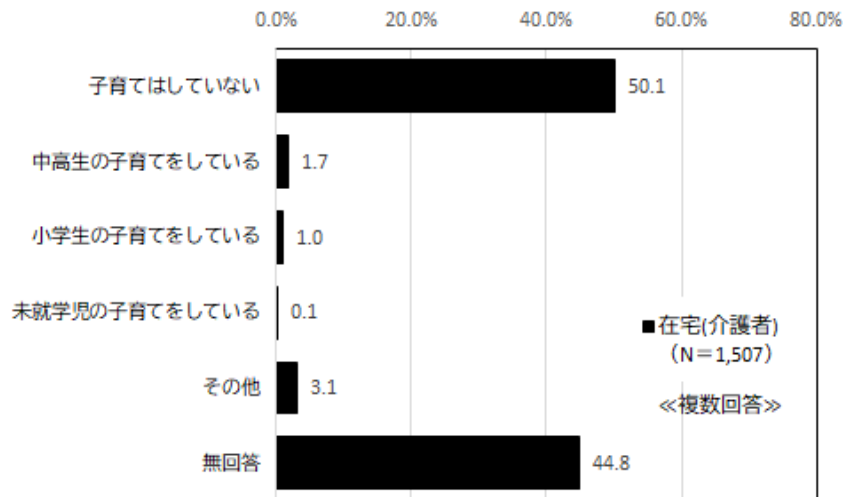


19. 子育てと介護（ダブルケア）

(1) 子育ての状況

対象：『在宅高齢者（介護者）』

介護者が現在、子育てをしているか尋ねたところ、「子育てはしていない」が50.1%と最も多く、次いで「中高生の子育てをしている」が1.7%、「小学生の子育てをしている」が1.0%となっている。

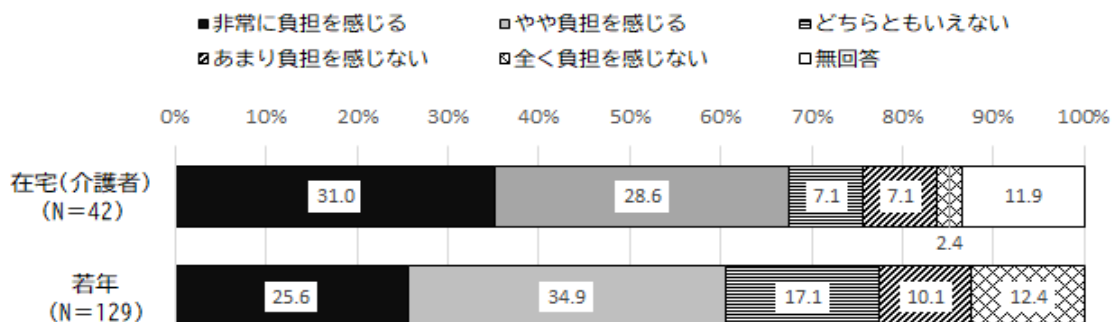


(2) 子育てと介護（ダブルケア）に対する負担感

対象：『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

子育てと介護（ダブルケア）をしている介護者に負担感を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）は「非常に負担を感じる」が31.0%と最も多く、次いで「やや負担を感じる」が28.6%となっている。

子育てと介護（ダブルケア）をしている若年者に負担感を尋ねたところ、「やや負担を感じる」が34.9%と最も多く、次いで「非常に負担を感じる」が25.6%となっている。

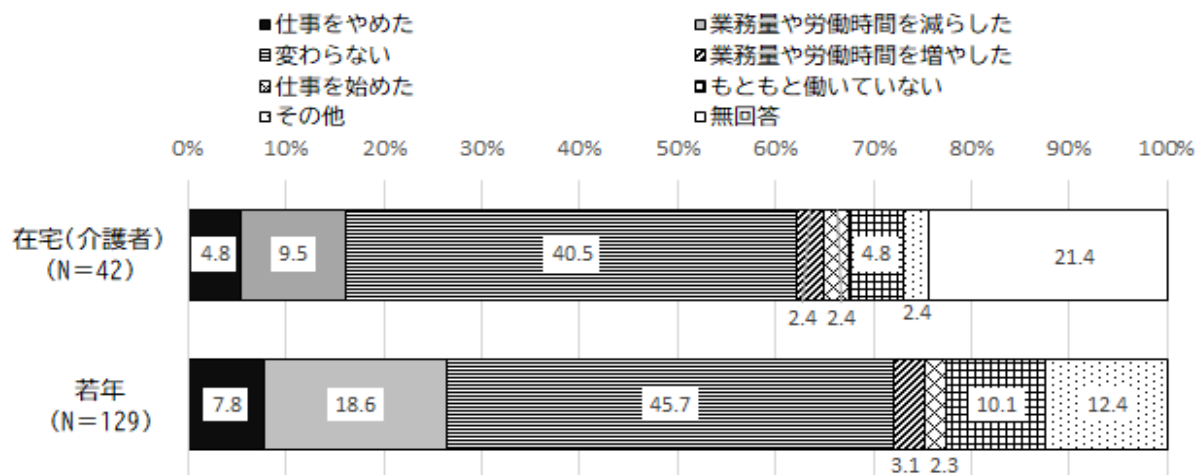


【令和4年度】
 「非常に負担を感じる」
 在宅(介護者)：23.5% 若年：21.8%
 「やや負担を感じる」
 在宅(介護者)：44.1% 若年：27.4%

(3) ダブルケアによる就労状況の変化

対象：『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

ダブルケアが始まる前と後の就業状況の変化を尋ねたところ、「変わらない」が最も多く、在宅高齢者（介護者）で40.5%、若年者で45.7%となっている。次いで「業務量や労働時間を減らした」が在宅高齢者（介護者）で9.5%、若年者で18.6%となっている。



【令和4年度】
「変わらない」
在宅(介護者)：55.9% 若年：42.7%
「業務量や労働時間を減らした」
在宅(介護者)：17.6% 若年：16.9%

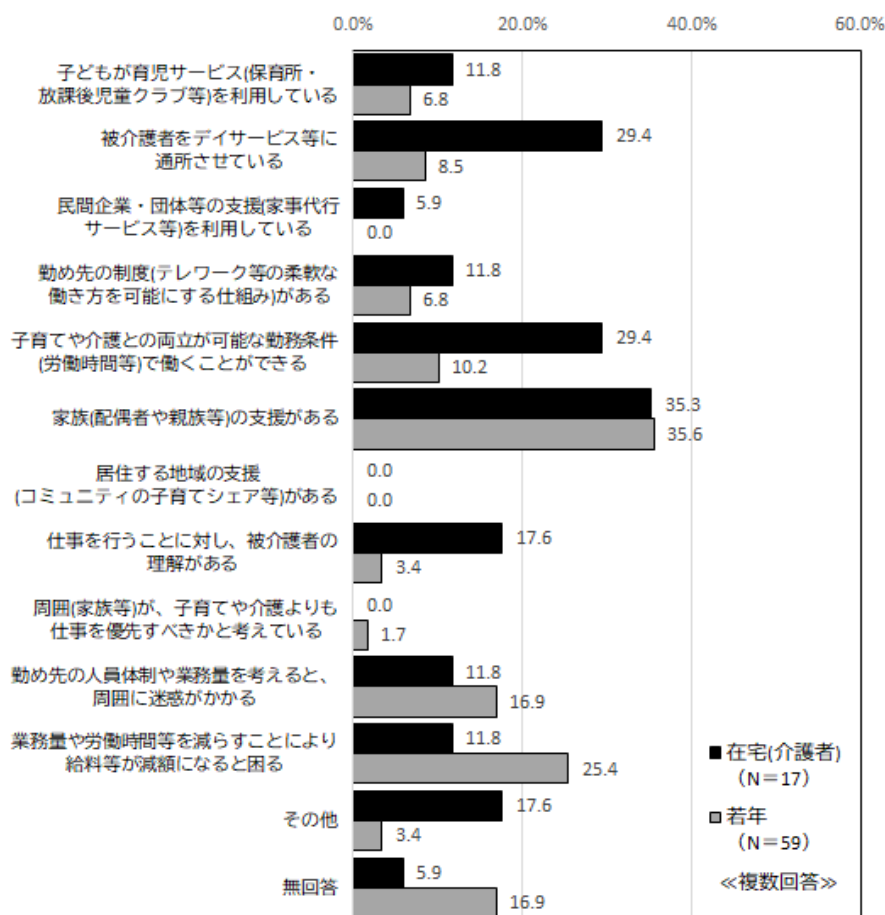
(3) - 1 就業状況が変わらない理由

対象：『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

就業状況が変わらないと答えた人にその理由を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）では「家族（配偶者や親族等）の支援がある」が 35.3%と最も多く、次いで「被介護者をデイサービス等に通所させている」「子育てや介護との両立が可能な勤務条件（労働時間等）で働くことができる」がともに 29.4%となっている。

若年者では「家族（配偶者や親族等）の支援がある」35.6%が最も多く、次いで「業務量や労働時間を減らすことにより給料等が減額になると困る」が 25.4%となっている。

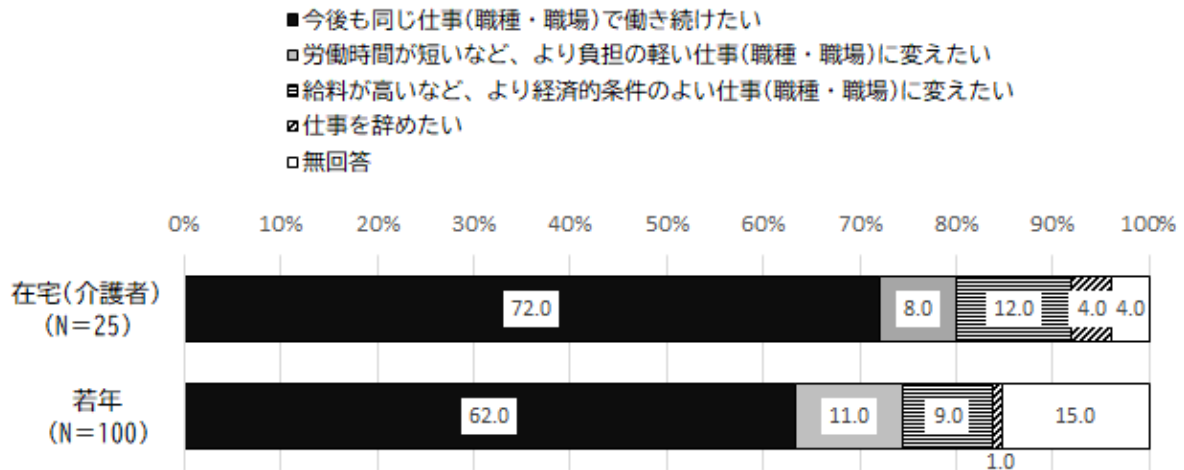
	在宅高齢者（介護者）	若年者
1位	家族(配偶者や親戚等)の支援がある (35.3%)	家族(配偶者や親戚等)の支援がある (35.6%)
2位	被介護者をデイサービス等に通所させている (29.4%)	業務量や労働時間等を減らすことにより給料等が減額になると困る (25.4%)
	子育てや介護との両立が可能な勤務条件(労働時間等)で働くことができる (29.4%)	
3位	仕事を行うことに対し、被介護者の理解がある (17.6%)	勤め先の人員体制や業務量を考えると、周囲に迷惑がかかる (16.9%)



(3) - 2 今後の働き方

対象：『在宅高齢者（介護者）』『若年者』

今後どのような働き方（働かない場合も含めて）を考えているか尋ねたところ、「今後も同じ仕事（職種・職場）で働き続けたい」が最も多く、在宅高齢者（介護者）で72.0%、若年者で62.0%となっている。次いで在宅高齢者（介護者）では「給料が高いなど、より経済的条件のよい仕事（職種・職場）に変えたい」が12.0%、若年者では「労働時間が短いなど、より負担の軽い仕事（職種・職場）に変えたい」が11.0%となっている。



【令和4年度】

「今後も同じ仕事(職種・職場)で働き続けたい」
在宅(介護者)：53.3% 若年：47.7%

「労働時間が短いなど、より負担の軽い仕事(職種・職場)に変えたい」
在宅(介護者)：23.3% 若年：15.9%

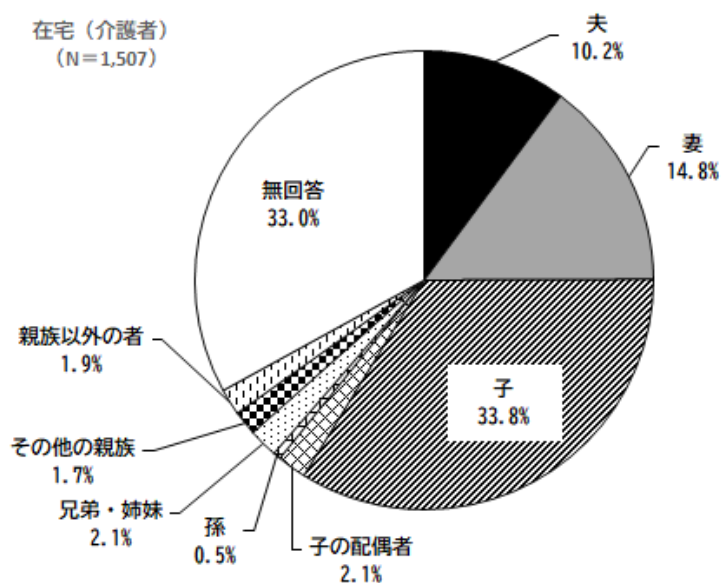
「給料が高いなど、より経済的条件のよい仕事(職種・職場)に変えたい」
在宅(介護者)：6.7% 若年：17.0%

第4章 在宅高齢者の介護者 ※「無回答」には、介護をしている方がいない場合を含む。

1. 主な介護者

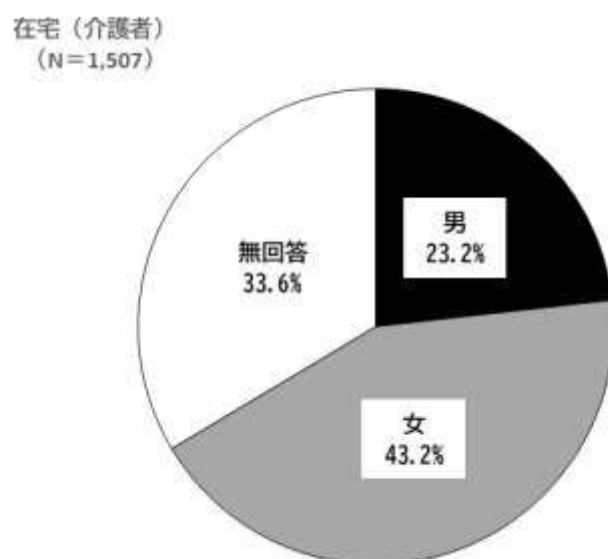
(1) 要介護者との続柄

要介護者との続柄については、「子」が33.8%と最も多く、次いで「妻」14.8%、「夫」10.2%となっている。



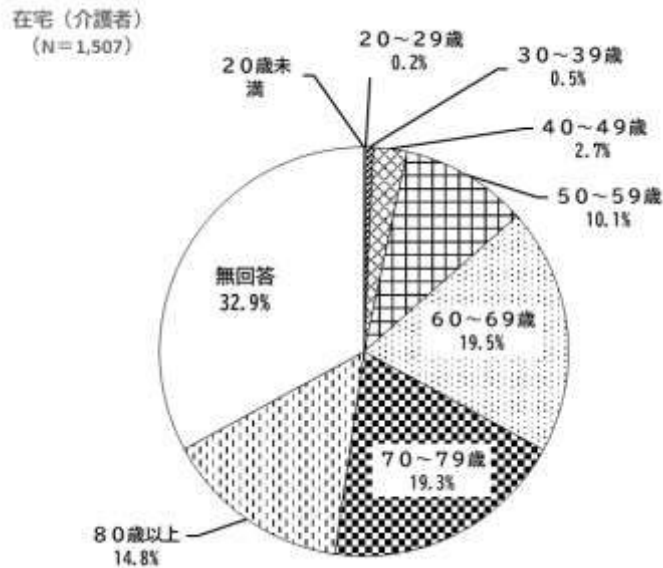
(2) 性別

性別は、女性が43.2%、男性が23.2%となっており、女性の介護者の方が多くなっている。



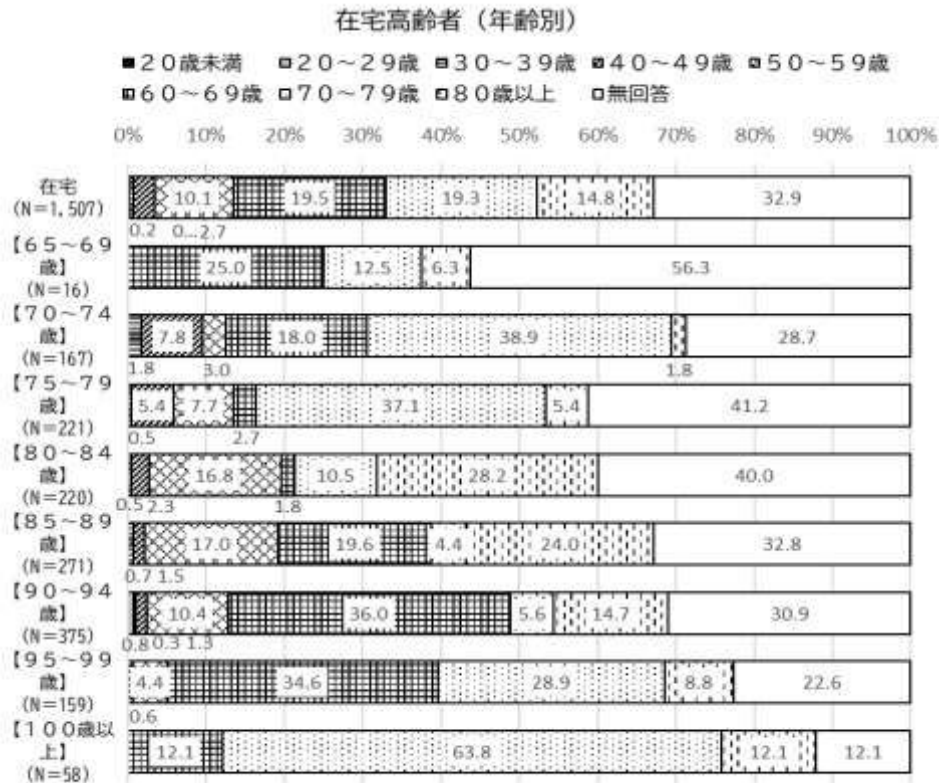
(3) 年齢

介護者の年齢は、「60～69歳」が19.5%と最も多く、次いで「70～79歳」が19.3%、「80歳以上」が14.8%となっている。



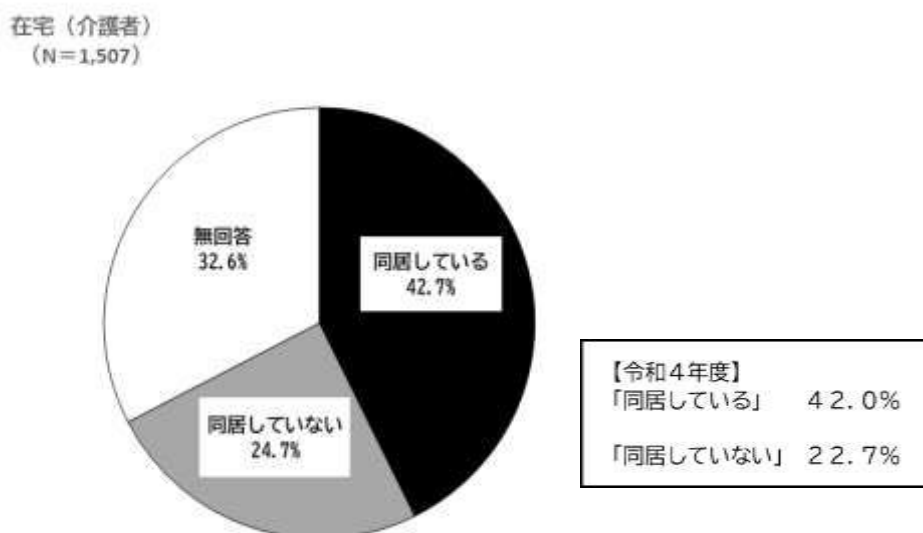
【属性別特徴】

要介護者の年齢別では、要介護者が65～69歳及び90～99歳の層では、介護者は「60～69歳」が最も多い割合を占めている。70～79歳と100歳以上では、介護者は「70～79歳」が最も多くなっている。



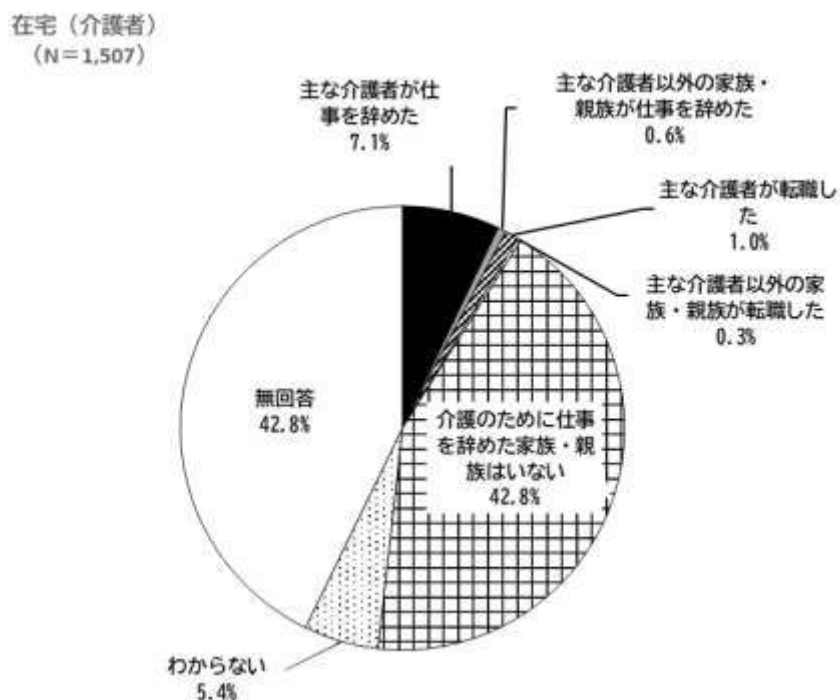
(4) 要介護者との同居の状況

要介護者との同居の状況については、「同居している」が42.7%、「同居していない」が24.7%となっている。



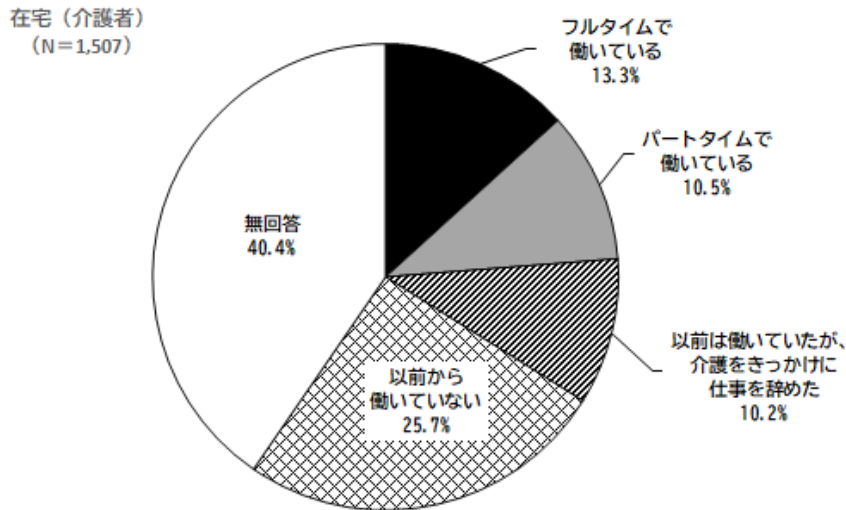
(5) 介護を主な理由として過去1年間に仕事を辞めたか

家族や親族の中で介護を主な理由として過去1年間に仕事を辞めた方がいるかについて尋ねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が42.8%と最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた」が7.1%となっている。



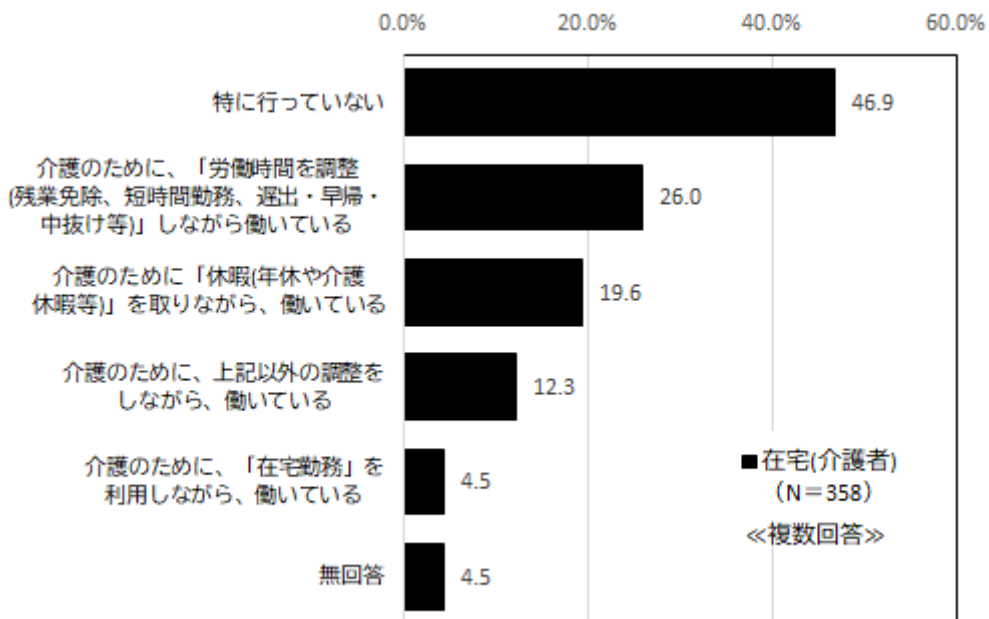
(6) 勤務形態

主な介護者の勤務形態について尋ねたところ、「以前から働いていない」が25.7%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が13.3%、「パートタイムで働いている」が10.5%となっている。



(6) -1 働き方の調整等

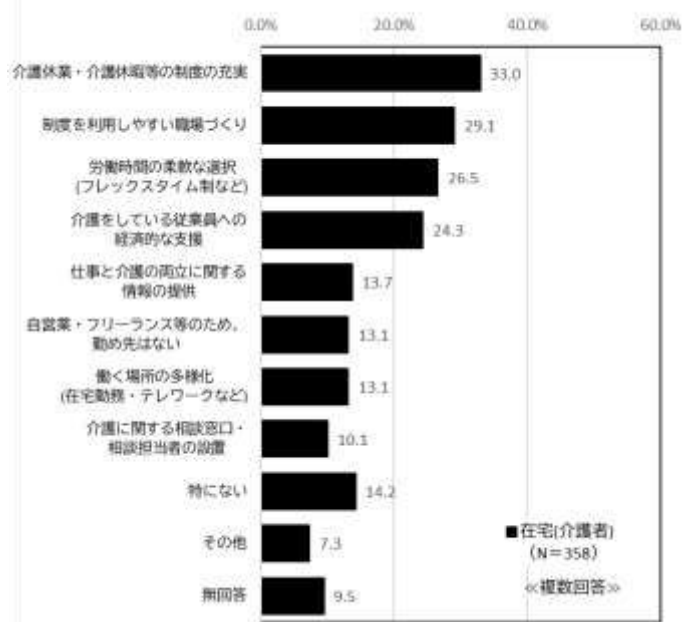
働いている介護者に対し、働き方の調整等をしているか尋ねたところ、「特に行っていない」が46.9%と最も多く、次いで「介護のために「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら働いている」が26.0%、「介護のために「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら働いている」が19.6%となっている。



(6) - 2 勤務先からの効果的な支援

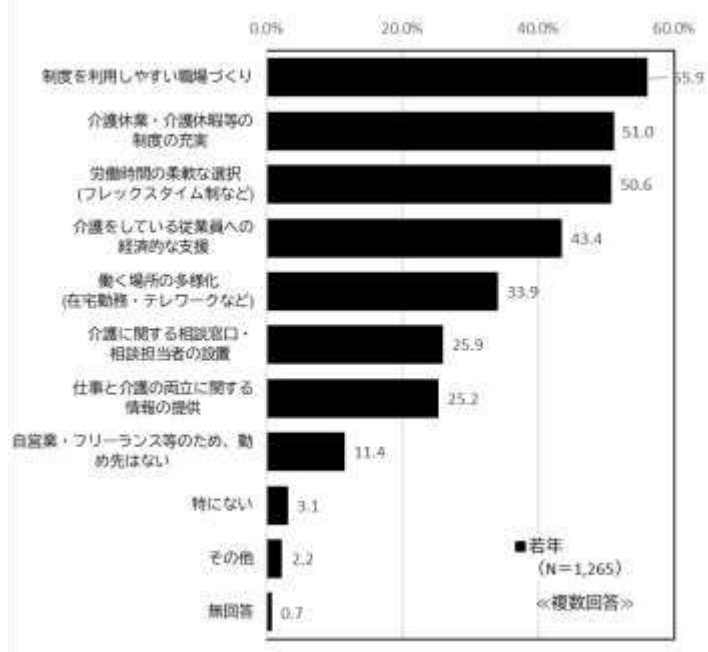
勤務先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思うか尋ねたところ、現在働いている在宅高齢者の介護者では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が33.0%と最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が29.1%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が26.5%となっている。

なお、若年者では「制度を利用しやすい職場づくり」が55.9%と最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が51.0%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が50.6%となっている。



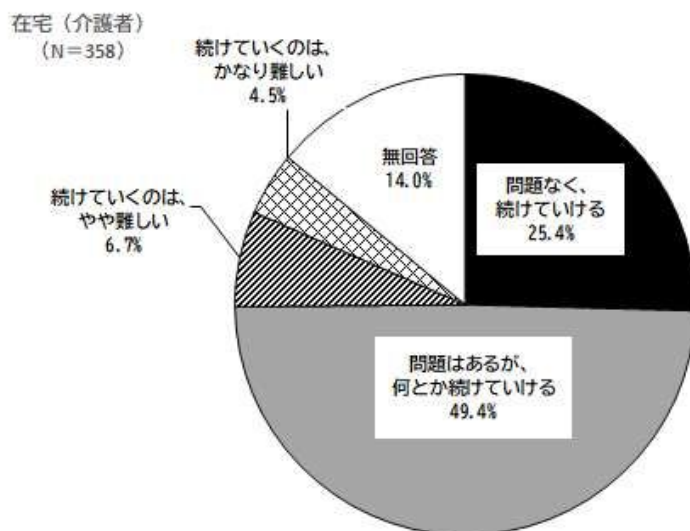
【令和4年度】	
「制度を利用しやすい職場づくり」	38.7%
「介護休業・介護休暇等の制度の充実」	36.9%
「介護をしている従業員への経済的な支援」	31.0%

【参考】対象：『若年者』



(6) - 3 介護継続の可能性

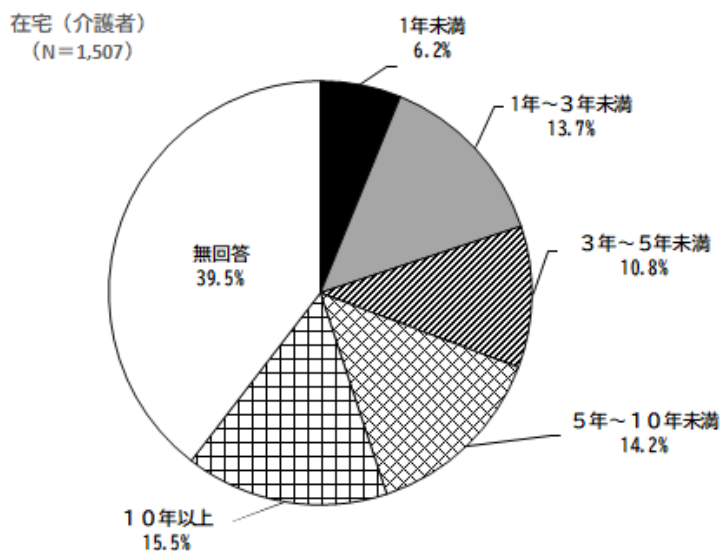
働いている介護者に対し、今後も働きながら介護を続けていけそうか尋ねたところ、「問題はあるが、何とか続けている」が49.4%と最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が25.4%、「続けていくのは、やや難しい」が6.7%となっている。



2. 介護の状況

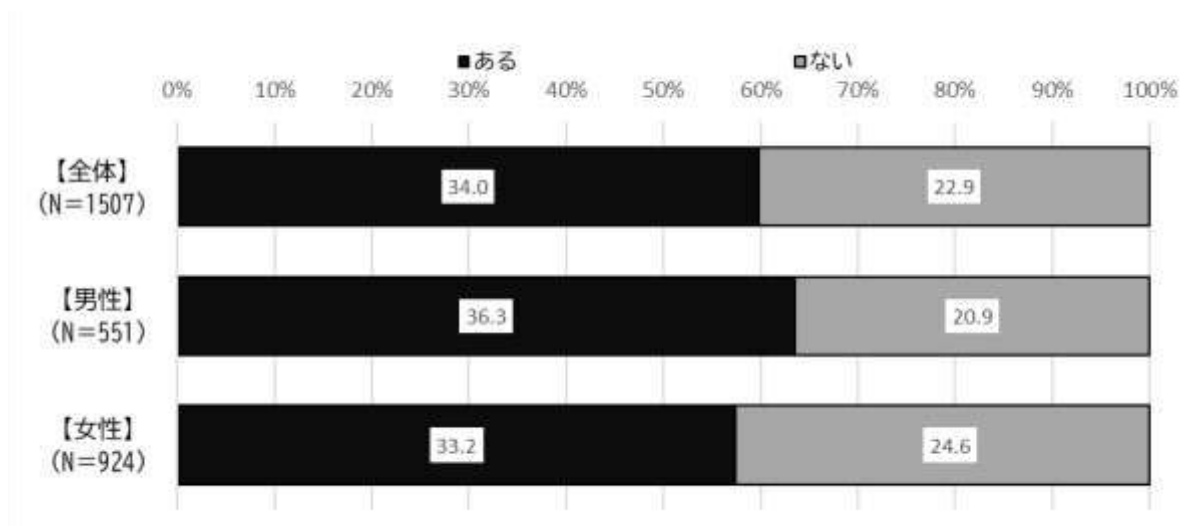
(1) 介護期間

主な介護者がこれまで介護してきた期間を尋ねたところ、「10年以上」が15.5%と最も多く、次いで「5年～10年未満」が14.2%、「1年～3年未満」が13.7%となっている。



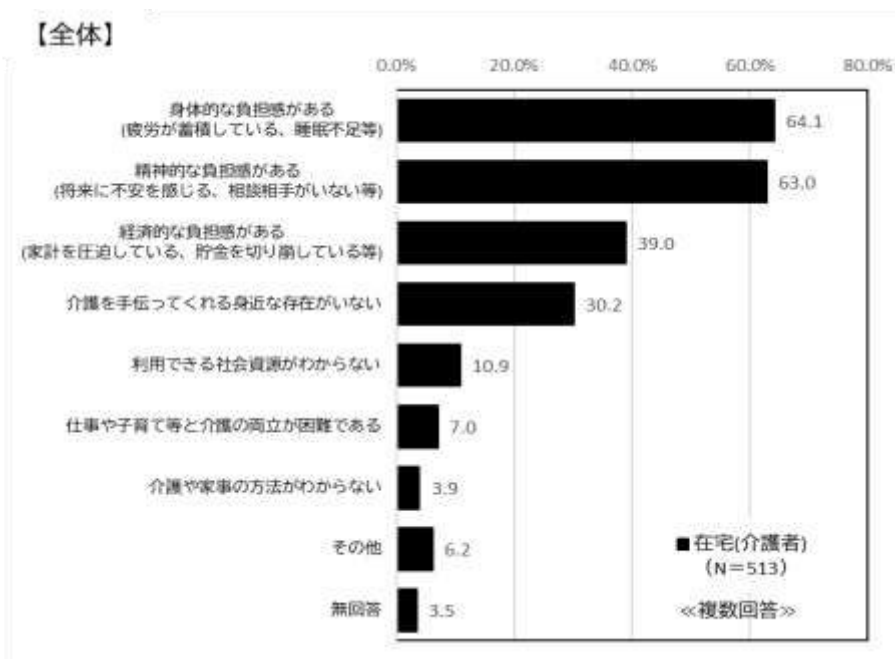
(2) 困っていることの有無

主な介護者が現在介護するうえで困っていることがあるか尋ねたところ、「ある」が34.0%、「ない」が22.9%となっている。



(2) -1 介護するうえで困っている内容

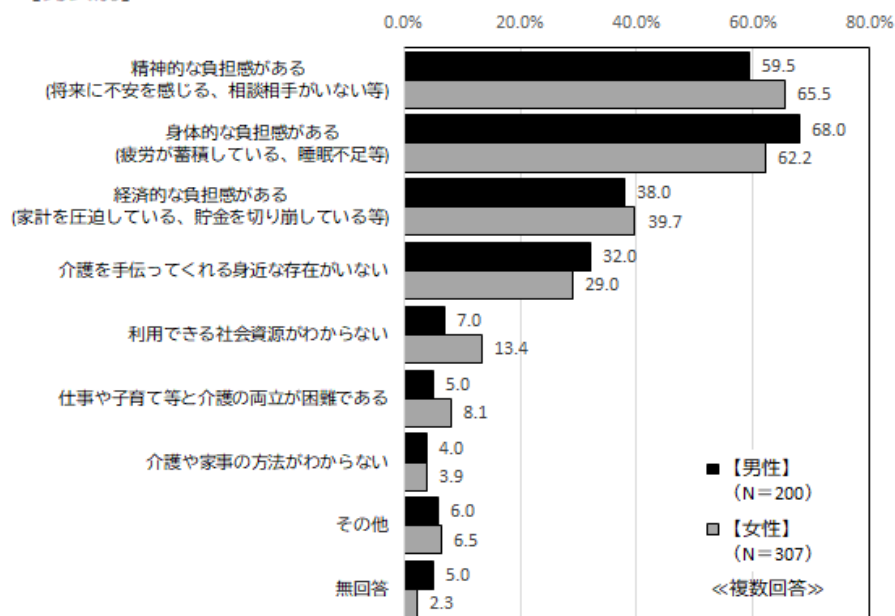
「困っていることがある」と回答した介護者に対し、困っていることは何か尋ねたところ、「身体的な負担感がある(疲労が蓄積している、睡眠不足等)」が64.1%と最も多く、次いで「精神的な負担感がある(将来に不安を感じる、相談相手がいない等)」が63.0%、「経済的な負担感がある(家計を圧迫している、貯金を切り崩している等)」が39.0%となっている。



【属性別特徴】

男女別にみると、男性では「身体的な負担感がある(疲労が蓄積している、睡眠不足等)」が68.0%と最も多く、女性では「精神的な負担感がある(将来に不安を感じる、相談相手がいない等)」が65.5%と最も多くなっている。

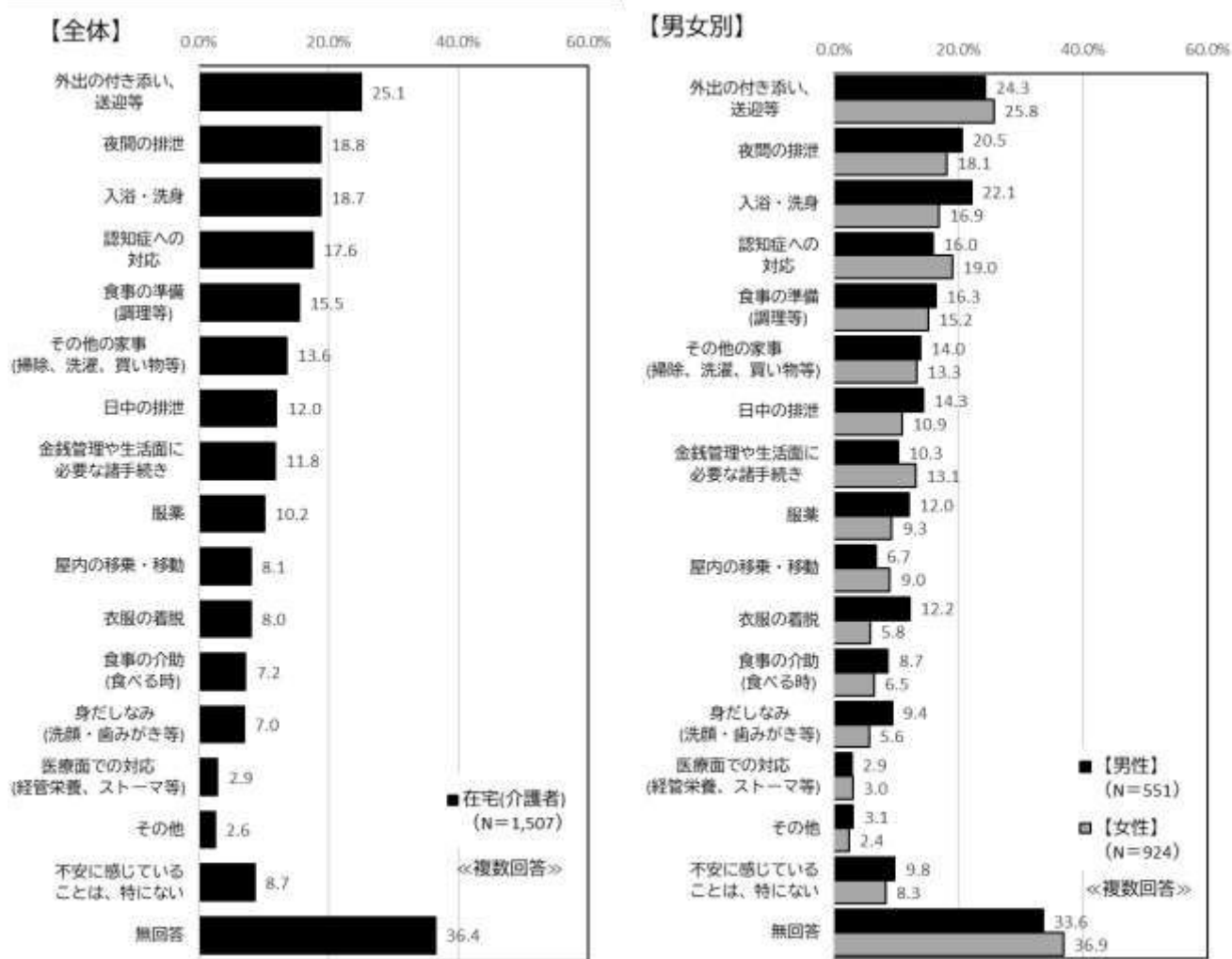
【男女別】



(3) 主な介護者が不安に感じる介護

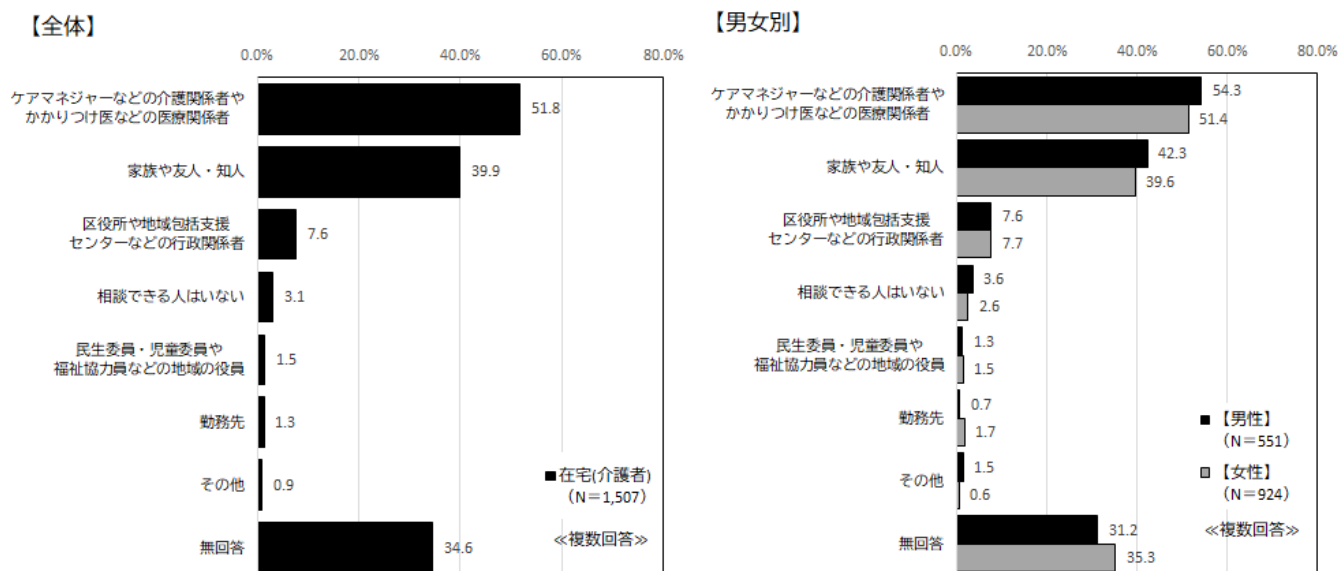
主な介護者が不安に感じる介護については、「外出の付き添い、送迎等」が25.1%と最も多く、次いで「夜間の排泄」が18.8%、「入浴・洗身」が18.7%、「認知症への対応」が17.6%となっている。

また、男女別では、男性の方が「夜間の排泄」、「入浴・洗身」などに対する介護の不安の割合が多くなっている。



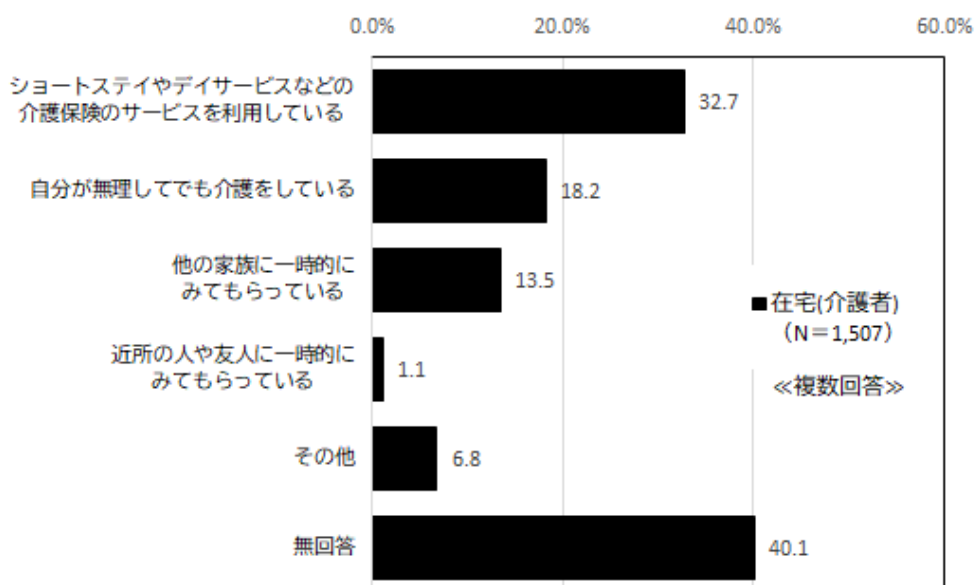
(4) 相談相手

介護のことで困ったときに相談する相手については、「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」が51.8%と最も多く、次いで「家族や友人・知人」が39.9%となっている。



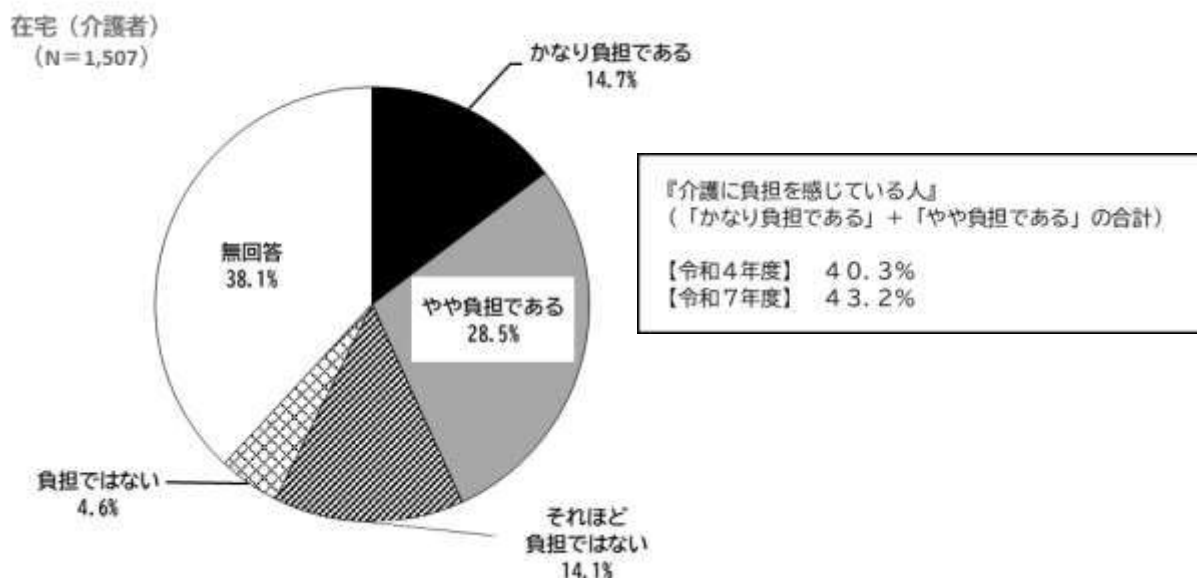
(5) 介護困難時の対処方法

主な介護者が介護をすることが困難な場合にどのように対処しているか尋ねたところ、「ショートステイやデイサービスなどの介護保険のサービスを利用している」が32.7%と最も多く、次いで「自分が無理してでも介護をしている」が18.2%、「他の家族に一時的にみてもらっている」が13.5%となっている。



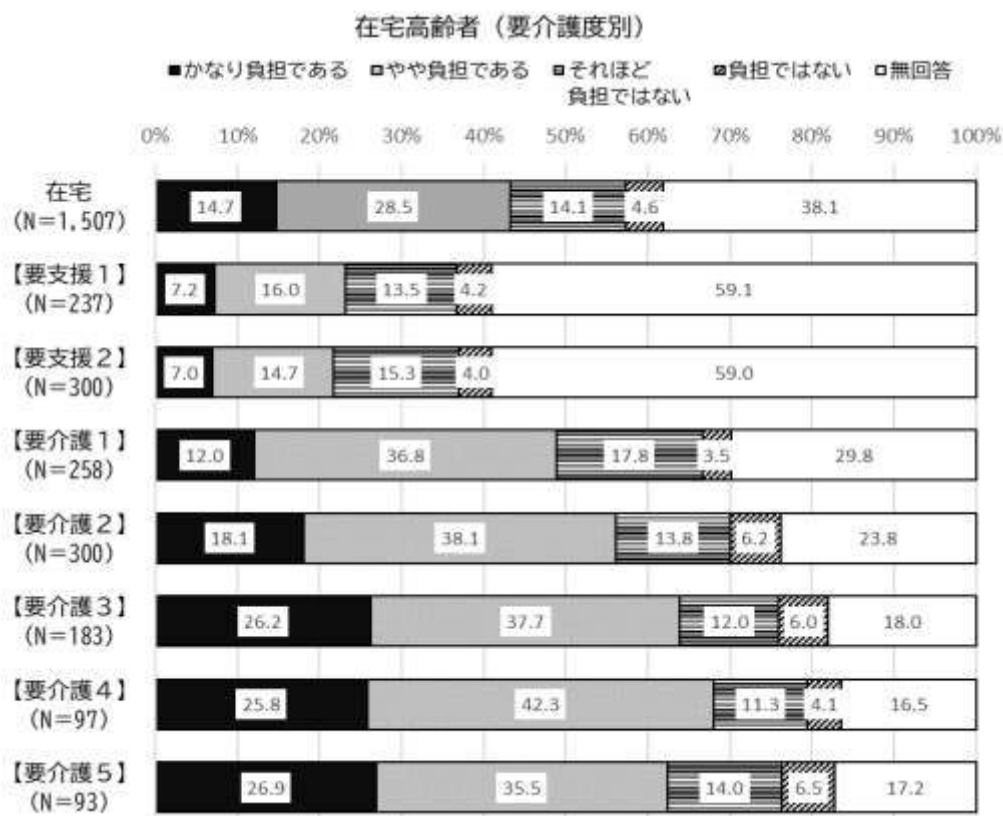
(6) 介護の負担感

介護者が感じている介護の負担感については、「かなり負担である」が14.7%、「やや負担である」が28.5%で、介護に負担を感じている人は43.2%となっている。一方で、「それほど負担ではない」が14.1%、「負担ではない」が4.6%となっている。



【属性別特徴】

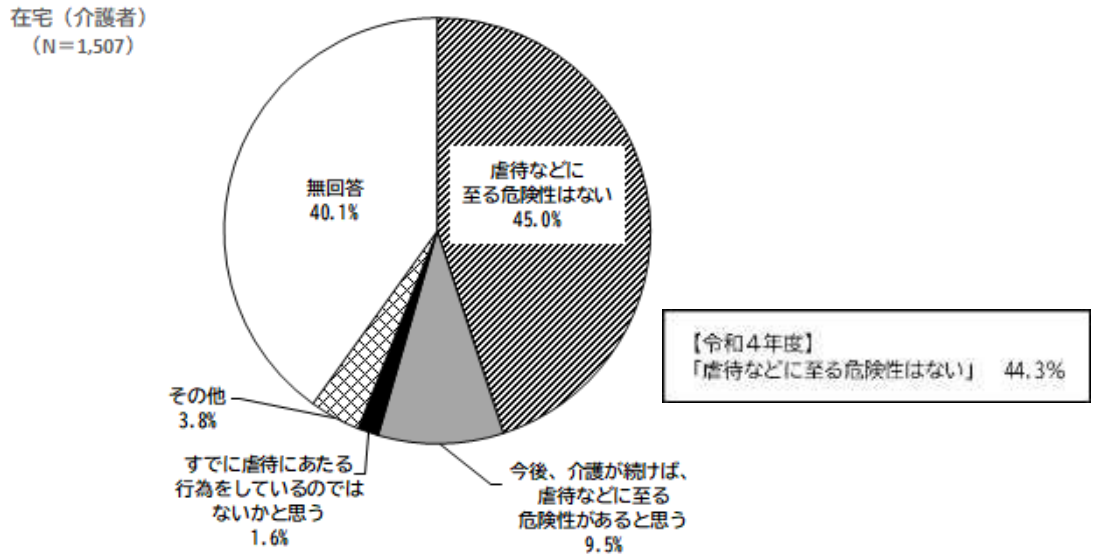
在宅高齢者について要介護度別にみると、おおむね要介護度が高いほど負担感が大きい傾向にある。



3. 高齢者の虐待

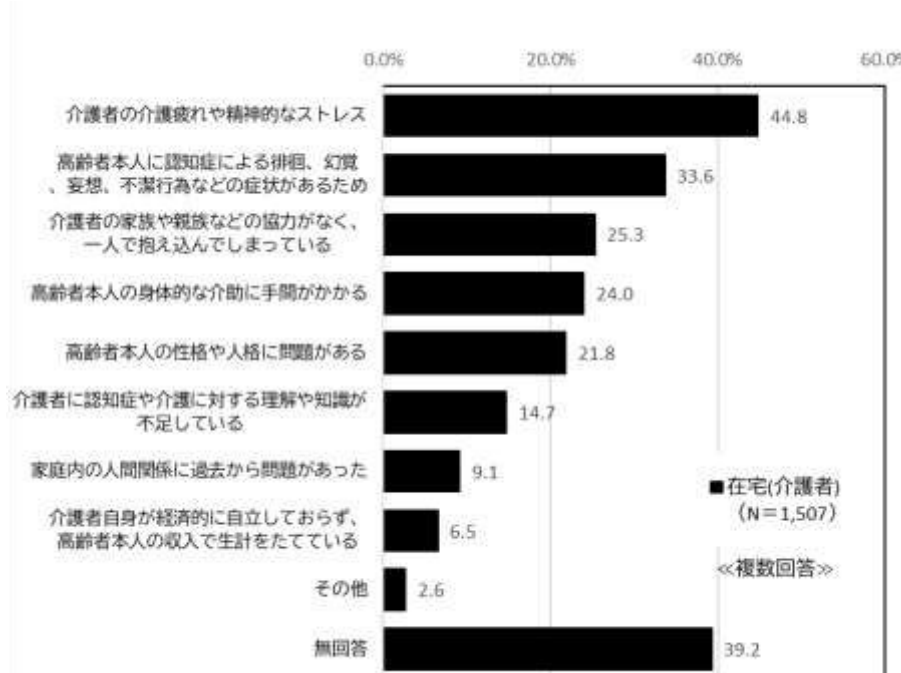
(1) 要介護者虐待の危険性

介護者に要介護者への虐待に至る危険性を感じたことがあるか尋ねたところ、「虐待などに至る危険性はない」が45.0%と最も多く、次いで「今後、介護が続けば、虐待などに至る危険性があると思う」が9.5%となっている。



(2) 要介護者虐待につながる要因

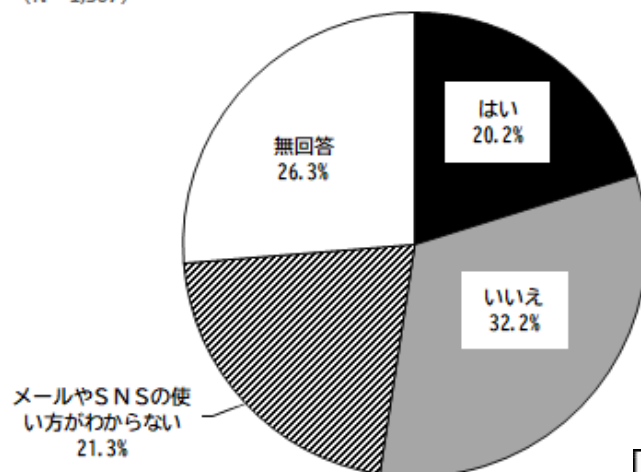
高齢者への虐待はどのような要因で起こると思うか尋ねたところ、「介護者の介護疲れや精神的なストレス」が44.8%と最も多く、次いで「高齢者本人に認知症による徘徊、幻覚、妄想、不潔行為などの症状があるため」が33.6%、「介護者の家族や親族などの協力がなく、一人で抱え込んでしまっている」が25.3%となっている。



(3) 介護や福祉の相談にメールやオンラインを利用したいか

介護や福祉の相談にメールやオンラインを利用したいか尋ねたところ、「はい」が20.2%、「いいえ」が32.2%、「メールやSNSの使い方がわからない」が21.3%となっている。

在宅（介護者）
(N=1,507)

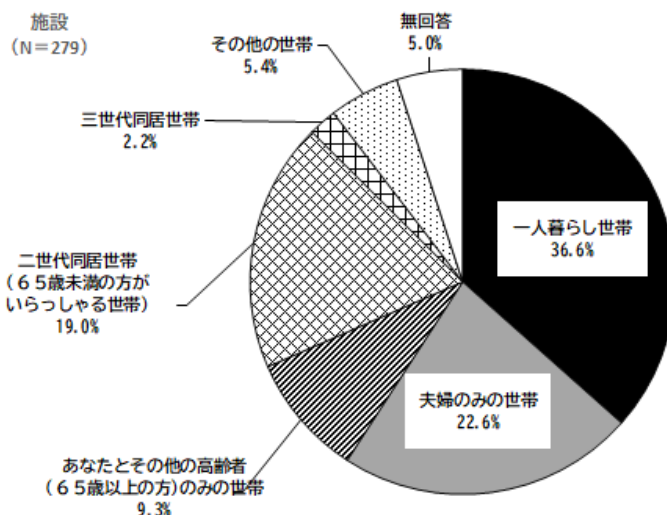


【令和4年度】	
「はい」	17.1%
「いいえ」	27.1%
「メールやSNSの 使い方がわからない」	19.9%

第5章 施設入居者の状況

1. 入所前の家族状況

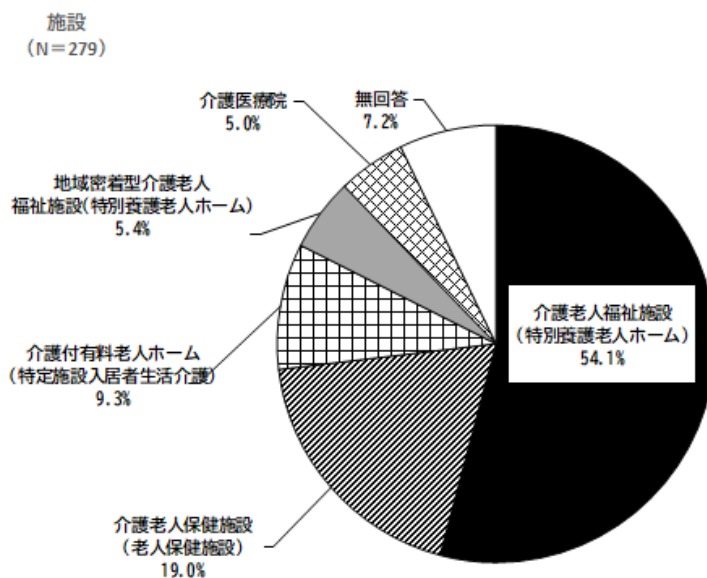
施設に入る前の家族の状況を尋ねたところ、「一人暮らし世帯」が36.6%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が22.6%、「二世帯同居世帯(65歳未満の方がいらっしゃる世帯)」が19.0%となっている。



2. 施設サービスの利用状況

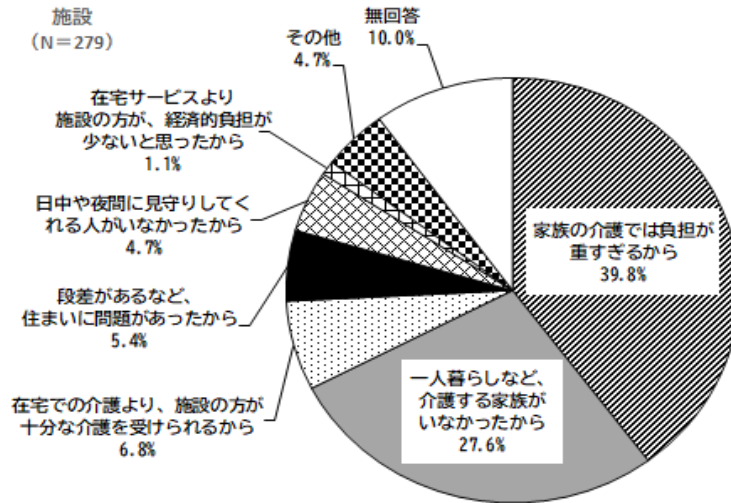
(1) 現在入っている施設の種類

現在入っている施設の種類について尋ねたところ、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」が54.1%と最も多く、次いで「介護老人保健施設(老人保健施設)」が19.0%、「介護付有料老人ホーム(特定施設入居者生活介護)」が9.3%となっている。



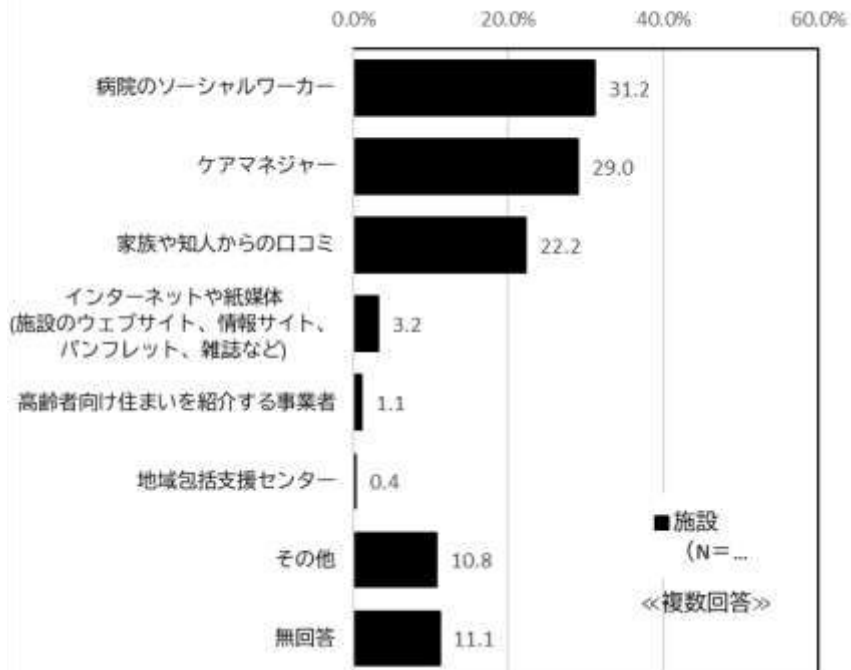
(2) 施設に入所した理由

施設に入所した理由については、「家族の介護では負担が重すぎるから」が39.8%と最も多く、次いで「一人暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が27.6%となっている。



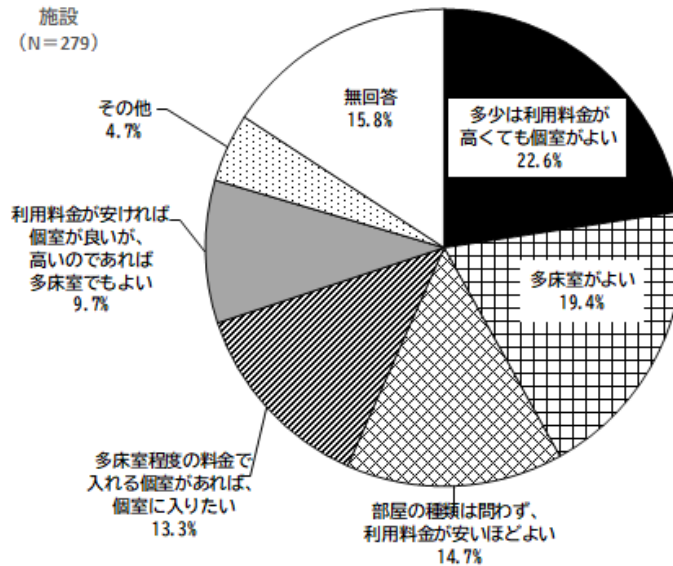
(3) 介護施設等に関する情報収集方法

介護施設等に関する情報にどのように調べたか尋ねたところ、「病院のソーシャルワーカー」が31.2%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」が29.0%、「家族や知人からの口コミ」が22.2%となっている。



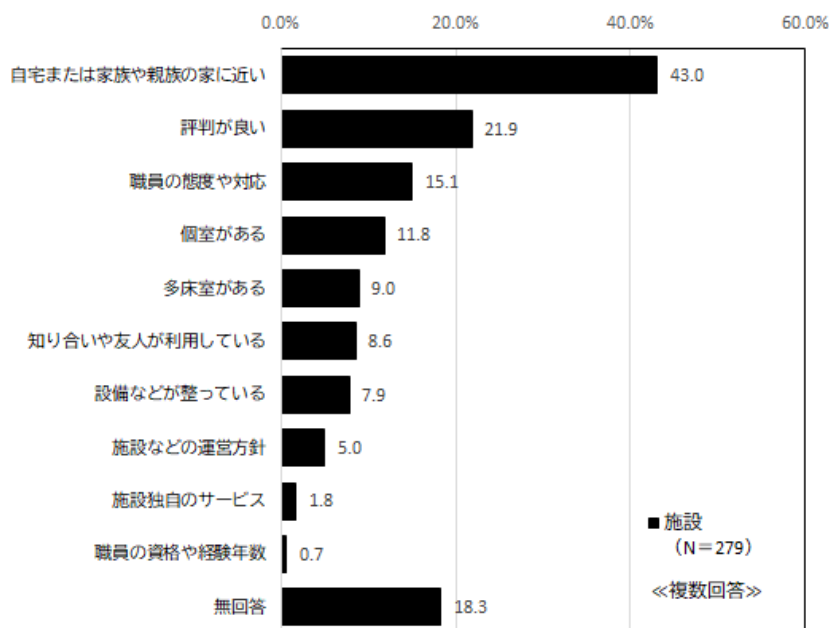
(4) 施設入所・入居にあたり、利用料金とサービスの関係

施設入るにあたり、利用料金とサービスの関係について尋ねたところ、「多少は利用料金が高くても個室がよい」が22.6%と最も多く、次いで「多床室がよい」が19.4%、「部屋の種類は問わず、利用料金が安いほどよい」が14.7%となっている。



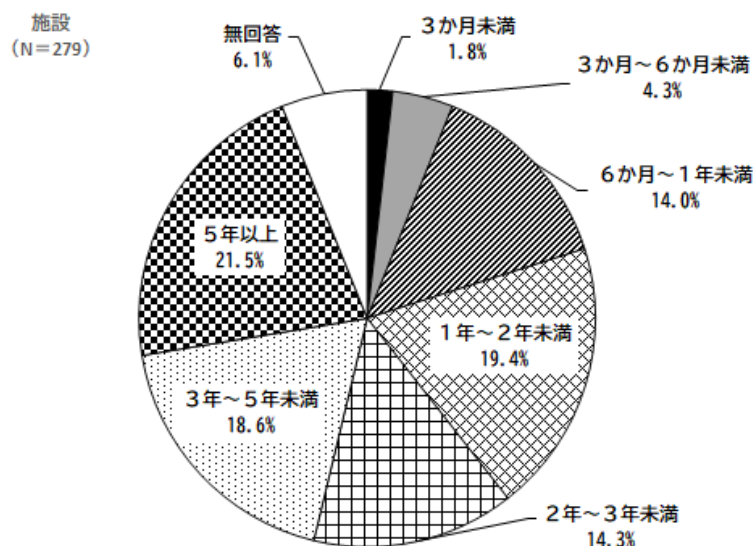
(5) 施設選択の重視する点

施設を選ぶときに、特にどのようなことを重視して決めたか尋ねたところ、「自宅または家族や親族の家に近い」が43.0%と最も多く、次いで「評判が良い」が21.9%、「職員の態度や対応」が15.1%となっている。



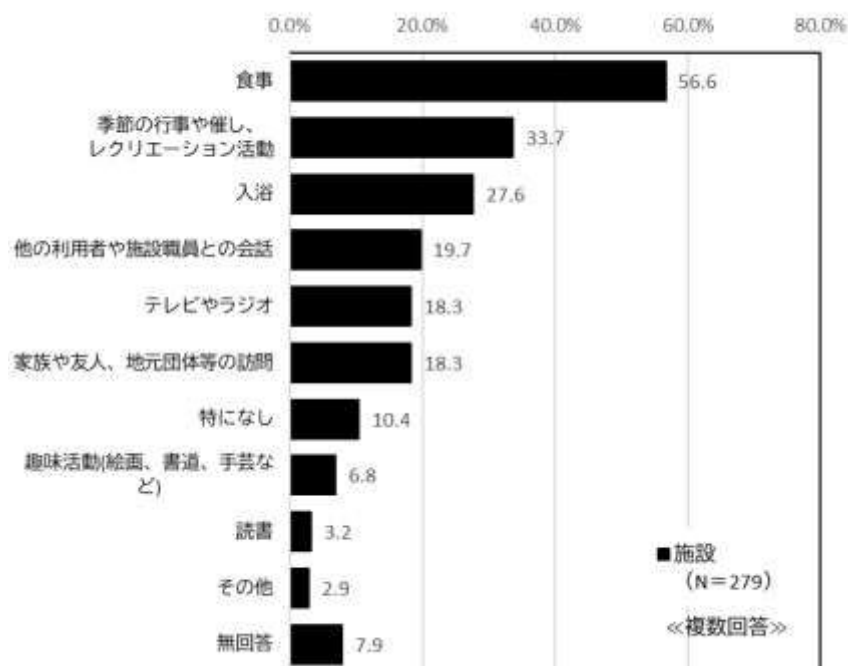
(6) 施設入所期間

入所期間についてみると、「5年以上」が21.5%と最も多く、次いで「1年～2年未満」が19.4%、「3年～5年未満」が18.6%となっている。



(7) 施設生活での楽しみ

施設生活での楽しみで最も多かったのは、「食事」が56.6%と最も多く、次いで「季節の行事や催し、レクリエーション活動」が33.7%、「入浴」が27.6%、「他の利用者や施設職員との会話」が19.7%となっている。

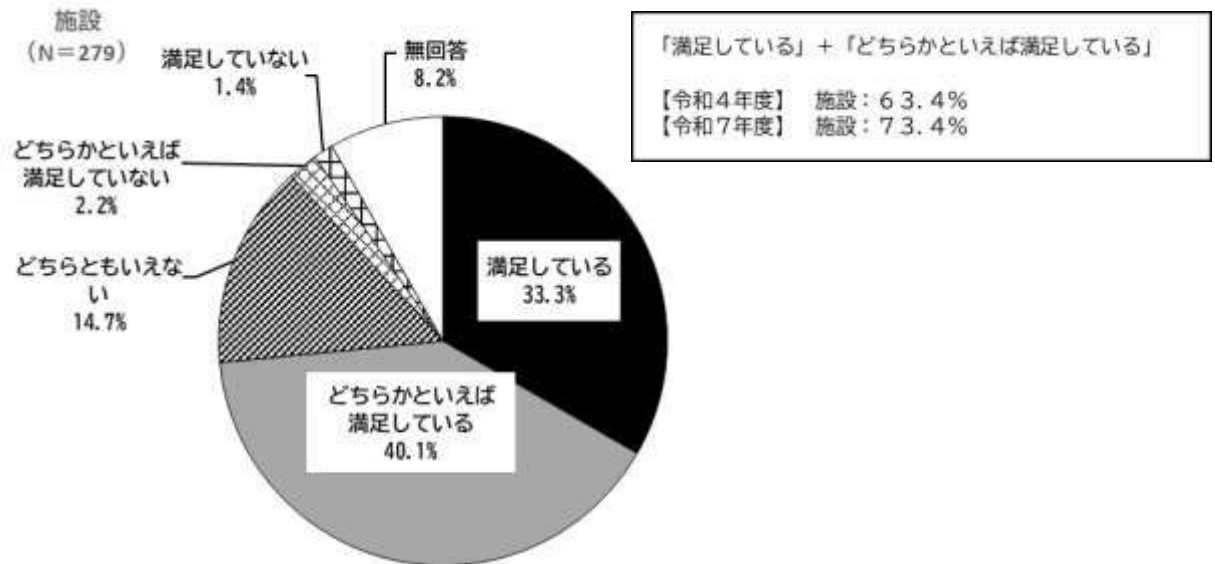


【令和4年度】
「食事」50.4%
「入浴」32.2%
「テレビやラジオ」31.9%

3. 施設での生活全体の印象

(1) 施設での生活全体について

施設での生活全体について、「どちらかといえば満足している」が40.1%と最も多く、次いで「満足している」が33.3%となっており、両者を合わせると73.4%となっている。



(2) 改善してほしい点

施設生活で改善してほしいと思うことは、「特になし」が39.4%と最も多く、次いで「食事の内容」が18.3%、「職員の体制(職員がもっと多いと良い)」が12.5%となっている。

